

2010年5月28日

コンプライアンス・CSRレポート  
(2009年度)

関西テレビ放送株式会社



## 目次

第1	はじめに	(1)
第2	2009年度の経過	(2)
第3	番組制作等について各部門の取り組み	(6)
	(1) 放送倫理会議の活動	(6)
	(2) 「S-コンセプト」他、本社番組制作部門の取り組み	(9)
	(3) 東京編成制作部門（東京コンテンツセンター）の取り組み	(11)
	(4) 報道部門の取り組み	(14)
	(5) スポーツ部門の取り組み	(18)
	(6) メディア戦略部門の取り組み	(22)
	(7) ライツ関連部門の取り組み	(24)
	(8) 技術部門の取り組み	(28)
	(9) 営業部門の取り組み	(30)
	(10) イベント開催部門の取り組み	(32)
	(11) 番組審議会の活動	(33)
第4	視聴者の方々とのつながりやメディアリテラシー活動	(35)
	(1) 活性化委員会からオンブズ・カンテレ委員会へ	(35)
	(2) 視聴者の皆様からのお問い合わせ等への対応状況と 「月刊カンテレ批評」	(39)
	(3) ACAPの会員企業として	(45)
	(4) メディアリテラシー推進活動の現状	(46)
	(5) 環境対策等、CSR活動について	(50)
	(6) 会見、ホームページ等、企業情報の開示状況	(50)
第5	コンプライアンス態勢の構築	(53)
	(1) リスクマネジメント態勢等の確立について	(53)

	(2)	情報セキュリティ態勢について	.....	(54)
	(3)	コンプライアンス・ラインの運用について	.....	(55)
<b>第6</b>		<b>経営機構等について</b>	.....	<b>(56)</b>
	(1)	機構改革と社長室、改革推進本部の設置について	.....	(56)
	(2)	経営陣と社員間のコミュニケーション改善について	.....	(57)
	(3)	関係会社の再構築とグループ政策について	.....	(57)
<b>第7</b>		<b>放送人倫理の確立に向けた 教育・研修等</b>	.....	<b>(59)</b>
<b>第8</b>		<b>おわりに</b>	.....	<b>(61)</b>

## 第1 はじめに

---

視聴者の皆さまに対し、2009年4月から2010年3月にいたる2009年度の当社の活動についてご報告申し上げます。

当社は、2008年に開局50周年の節目を迎えると同時に、2008年4月17日、会員活動停止という条件付きながら社団法人日本民間放送連盟（民放連）に再入会を果たし、次いで10月27日に活動停止処分の解除が承認されました。そのような状態の中、2009年度は、新たなスタートと位置付け、放送倫理の向上のため微力を尽くしてまいりました。

当社では、2007年の「発掘！あるある大事典Ⅱ」捏造問題以降、3年あまりにわたり、経営機構改革や内部統制システムの充実をはじめ倫理の向上、番組制作体制の増強などさまざまな課題に取り組んでおります。

2009年度におきましても、番組制作ならびに放送関連部門における機構改革を実施いたしました。

また番組面以外では、経営と社員とのコミュニケーションをはかり、迅速な経営判断や実現をはかるために社長室を設置したほか、メディアリテラシー推進部の拡張、充実をはかり、コンプライアンス推進局内に置き、具体的な活動を実践しているところでございます。

一方で、2008年度よりリスクマネジメントシステムの段階的構築に取り組んでいるところですが、2010年2月に社員によりますUSB記録媒体紛失事案が発生し、関係者の方々にご迷惑をお掛けしたことを反省し、情報セキュリティ管理を含む内部統制システムの整備に引続き取り組んでおります。

2008年秋からの景気後退は、放送広告に特に大きな影響を与え、現在は下げ止まりの状況にあるものの、本格的な回復がみられない状況下であります。

そのような中、当社は収入源の開拓や経費の節減にさまざまな努力を重ねており、放送本業への集中をベースに、放送番組の質や視聴者の皆様へのサービスを低下させることのないよう、心がけてまいります。

今回、2009年度の活動状況についてご報告いたします。そして、当レポートを視聴者の皆様方に幅広くご覧いただきたいと考えます。

## 第2 2009年度の経過

---

- 4月 1日 (水) 新卒社員21名入社  
「情報セキュリティ管理規程」「情報資産取扱要領」を施行
- 4月 7日 (火) 関西大学社会学部の「マスコミ制作実習」講義開始  
新入社員に対し、コンプライアンス関連研修
- 4月17日 (金) 関西テレビ活性化委員会 第9回会合  
活性化委員会特選賞「映像と証言で綴る 昭和の記録」に決定
- 4月25日 (土) 大阪地方木津市場の人々によるビデオ作品制作支援開始
- 4月27日 (月) 立命館大学産業社会学部との2009年度共同研究「10年後にテレビは生き残れるのか？」開始
- 4月28日 (火) リスクマネジメント規程制定
- 4月30日 (木) CS 「関西テレビ☆京都チャンネル」閉局
- 5月 8日 (金) 介護関連事業会社の清算を結了
- 5月22日 (金) 第17回放送倫理・コンプライアンス研修会「新しい消費者時代に向けて (テレビとのかかわり)」(蔵本一也 講師)
- 5月27日 (水) 関西テレビ活性化委員会、「コンプライアンス・CSRレポート (2008年度)」に対する見解を表明
- 5月28日 (木) 「三菱ダイヤモンドカップゴルフ2009」チャリティー (31日まで)
- 5月29日 (金) 決算取締役会開催、全体会議開催  
決算取締役会の報告社長記者会見  
「活性化委員会の見解を受けて」を発表
- 6月 1日 (月) 人事異動及び機構改革  
社長室並びに経営改革本部を設置、経理局を経営管理局に改組  
コンプライアンス推進室をコンプライアンス推進局に改称し、  
メディアリテラシー推進部を移管、営業局に営業推進部を設置、  
クロスメディア事業局を発展させ、メディア戦略局並びに  
ライツ事業局を設置、編成制作局制作センターの組織を改革  
「クールビズ」実施 (9月30日まで)
- 6月 2日 (火) ドキュメンタリー「路地裏のバレリーナ」撮影カメラマンが日本  
映画テレビ技術協会 映像技術奨励賞を受賞  
第46回ギャラクシー賞 一連の食物アレルギー関連の取材・報  
道で、報道活動部門の選奨を受賞 並びに開局50周年キャンペ  
ンCM「ありがとう関西！」CM部門選奨を受賞

- 6月 9日 (火) 活性化委員と役員との懇談会開催
- 6月10日 (水) 第1回コンプライアンス委員会開催
- 6月17日 (水) 放送倫理部会を発展させた放送倫理会議 第1回開催
- 6月20日 (土) 「キンダーフェスティバル」 新型インフルエンザの影響で中止
- 6月22日 (月) 第68回定時株主総会  
会長、社長、専務1名、常務3名他重任、取締役1名新任
- 6月29日 (月) 岸和田市の市民グループとの学習会実施
- 7月 8日 (水) メディアリテラシー 箕面市立中学校へ社員を講師派遣
- 7月14日 (火) 新放送システムによる放送を開始
- 7月22日 (水) 社屋内なんでもアリーナ等で、皆既日食観測会開催
- 7月28日 (火) メディアリテラシー 高校生によるドキュメンタリー制作  
支援開始
- 7月29日 (水) 心でつながるPJチーム 第6回 新メンバーでの初会合
- 7月30日 (木) 第1回 オンブズ・カンテレ委員会 開催
- 8月 1日 (土) 関西空港カメラをフルオート24時間稼働収録カメラに更新、天  
気や災害情報の向上を図る。
- 8月 3日 (月) 社屋内で1週間にわたり「ロボットショールーム」開催
- 8月 4日 (火) 新任管理職研修 開催
- 8月 6日 (木) 夏期社長定例記者会見
- 8月 8日 (土) 社屋内アトリウムで「こどもまつり」開催 (9日まで)  
箕面市の“こども体験フェア”に出前スタジオ展開 (9日まで)
- 8月22日 (土) 夏休みキッズみんなぱく開催 (30日まで)
- 9月 1日 (火) 社内SNS運用開始
- 9月 4日 (金) 10月改編記者発表会を開催
- 9月 6日 (日) S-コンセプト「100キロカロリーショップ～大公開！黄金  
レシピで健康BODY～」放送
- 9月17日 (木) 開局50周年ドラマ「ありがとうオカン」、日本民間放送連盟賞  
番組部門・テレビドラマ番組優秀賞受賞
- 9月25日 (金) 第18回放送倫理・コンプライアンス研修会「最近のBPO判断  
事例やプロダクト・プレースメントについて」(山田健太 講師)
- 9月26日 (土) 堺市の教育文化センター施設で、子供スタジオを展開
- 9月30日 (水) 京都の番組制作子会社の業務終了  
コンピューターシステム関連の子会社を完全子会社化
- 10月12日 (月) 科学番組 S-コンセプト「緊急招集！体力向上委員会 ～いま  
子ども達のからだに危険！～」関西地区で放送
- 10月13日 (火) ドラマ「リアル・クローズ」放送開始に伴い「オンエアリンク」

システムスタート

- 10月16日(金) 第2回 オンブズ・カンテレ委員会 開催
- 10月17日(土) FNN近畿中四国ブロック各局等と連携して地震報道緊急訓練実施
- 10月18日(日) イベント「はたらくくるま」に中継車とSNG車を展示
- 10月25日(日) メディアリテラシー関連新番組「テレビの素」スタート
- 11月7日(金) メディアアート関連番組「ヨーロッパ“最先端アート”への旅」関西地区地上波とBSにて放送
- 11月11日(水) 箕面市内の小中学校に社員を講師派遣
- 11月13日(金) 西宮市内の小中学校に社員を講師派遣
- 11月16日(月) 秋期社長定例記者会見
- 11月16日(月) コンプライアンス・CSRレポート(2009年度上半期)発表
- 11月18日(水) 「民放技術報告会」にて「ヘリコプター位置情報確認システム」「小型報道中継車」「新デジタルマスター」「新字幕システム・番組バンクシステム」「新HDテロップシステム」の5件を発表
- 11月25日(水) 「FNSあんたが大賞」審査で「ヘリコプター位置情報確認システム」が技術部門賞受賞、「サラウンド効果音送出システム」がアイデア部門賞受賞
- 12月3日(木) ドキュメンタリー「天のゆりかご～世界の屋根パミールに生きる～」が、アジアテレビ祭で審査員推奨
- 12月11日(金) リスクマネジメント会議開催
- 12月14日(月) 「淀川の巨大ナマズ 知られざる生態」が関西写真記者協会の協会賞受賞
- 2010年
- 1月22日(金) 第3回 オンブズ・カンテレ委員会 開催
- 1月22日(金) 宝塚市内の小中学校に社員を講師派遣
- 1月27日(水) 文化庁芸術祭で、ドキュメンタリー「父の国 母の国 ーある残留孤児の66年ー」が優秀賞を受賞(同作品は、ギャラクシー賞奨励賞、坂田記念ジャーナリズム賞も受賞)
- 1月28日(木) 新春社長定例記者会見
- 2月1日(月) ビル管理受託業務の子会社を当社に吸収合併
- 2月1日(月) 一部ニュースで、リアルタイム字幕放送開始
- 2月3日(水) 当社社員との共同研究で立命館大学の学生が「10年後の関西テレビは生き残れるか」をテーマに研究発表
- 2月3日(水) 当社番組制作者によるパネルディスカッション開催
- 2月4日(木) 社員によるUSBメモリー紛失



- 2月 4日 (木) リスクマネジメント会議開催
- 2月 6日 (土) 科学番組 S-コンセプト「男と女のしあわせ脳研」  
関西地区で放送
- 2月18日 (木) リスクマネジメント会議開催
- 2月19日 (金) 公正取引委員会主催 下請法講習会に担当者参加
- 2月19日 (金) 川西市内の小学校に社員を講師派遣
- 2月19日 (金) 民放連「メディア・リテラシー実践プロジェクト報告会」に  
担当者参加
- 2月25日 (木) 社屋内アトリウムで「生命のメッセージ展」開催(26日まで)
- 2月27日 (土) インターネットを利用した「R-1ぐらんぷり2010」の  
見逃し動画配信スタート
- 3月 3日 (水) 大阪市内の小学校に社員を講師派遣
- 3月 5日 (金) 近畿民放19社主催「第5回 放送倫理セミナー」を当社ホール  
で開催
- 3月 6日 (土) 飲酒事故追放イベント「LIVE SDD 2010」放送
- 3月11日 (水) 情報セキュリティ基本方針等を制定、講習会を開催
- 3月21日 (日) 科学番組 S-コンセプト「健康ボディで脱メタボ! レッツト  
レーニング」 関西地区で放送
- 3月28日 (日) 心でつながるPJチーム 近畿大学附属高校制作作品上映会  
当社内で開催
- 3月29日 (月) 社屋内アトリウムで「ほほえみの森」開催(30日まで)
- 3月31日 (水) 地上デジタル中継局98局へ、放送エリアのデジタルカバー  
791万世帯、率95.9%

### 第3 番組制作等について各部門の取り組み

---

#### (1) 放送倫理会議の活動

2009年6月度より、従来の「放送倫理部会」は新たな「放送倫理会議」として、コンプライアンス委員会の組織として位置づけられました。

委員には従来の放送倫理部会における、番組関連部局の局長・部長に加え、営業局（業務部長）、ライツ開発局（ライツ事業部長）、メディア戦略局（ゼネラルマネジャー）を加え、放送をめぐる新展開を的確に反映し、放送倫理を放送関連部局全般にわたる社内討議課題とすべく、拡充されました。また座長にコンプライアンス担当役員を充てることとし、「経営」と「制作現場」が放送倫理をめぐる情報・知見の共有の一層の徹底を図ることとしました。

番組審議会の審議事項、視聴者対応実績、活性化委員会（7月よりオンブズ・カンテレ委員会）の討議内容を社内に周知徹底することも、放送倫理会議が主に担うところで、さらに民間放送連盟、BPOのさまざまな決定などを、解釈・理解して受けとめるための受け皿にもなっています。以下に主な内容を記します。

##### ・第1回（6月17日）

2007年に作成された「番組制作ガイドライン」の改訂について、「放送倫理会議」が主となって行うことを確認しました。

事例検討では、ドラマにおける「警備業」の描き方について、職業に「貴賤」観をいだかせる表現への全般的な注意を共有しました。またドラマ主人公の女兒の心臓疾患の具体的な病名がホワイトボードに書かれていることについて、子供の場合、難病の告知はデリケートな問題なので慎重な扱いが望まれるなどを申し合わせました。

ショッピング通販番組や政党CMについて、民間放送連盟からの資料をもとに討議しました。

##### ・第2回（7月13日）

リスクマネジメント規程の放送内容に関するリスクマネジメント活動の支援及び管理、番組をはじめとする当社の放送品質のモニタリング及びトラブル発生時の対応という条項に照らして、CMやライツ開発関連番組などについてもこの会議の担務とすることを決定し、ライツ開発局、メディア戦略局もこの会議のメンバーに加わることになりました。

事例検討では、番組とともに商業放送の根幹をなすCMについて、営業、考査だけでは収まらない問題も増えている錯綜した状況の中、放送倫理会議の意見を求めることとしました。ショッピング番組が、番組ではなく「広告」「CM」と取られかねな

い現状についてなどの報告がありました。

・第3回（8月14日）

「関西テレビ活性化委員会」から発展した「オンブズ・カンテレ委員会」について報告されました。「オンブズマン機能」として視聴者の意見、批判、苦情などを、吟味・検討し、調査を指示したり、当社に改善策を求めること、放送による人権侵害などの抗議、苦情に関しても、独立した立場で調査・検証し、当社に救済措置などの改善策を求めること、そのために「放送倫理会議」の討議内容にも、専門家の立場から意見をいただくことになりました。「内部的自由（制作者としての良心の確立）の保障について」は、当社の番組制作に携わる者が、放送番組基準に沿わない、良心に反する業務を命じられた場合など、事実関係を調査し、当社に対し注意喚起・改善などを求める旨、明示されました。

事例検討については、S-コンセプト「100キロカロリーショップ」（9月6日放送）で、「発掘あるある大事典」の捏造問題以後、初めて番組内で実験を取り扱ったことが取り上げられました。実験の内容は人間は一日1700キロカロリーで十分ということを実証するもので、▽時系列を入れ替えない、▽コメントの強制をしない、▽オーディションで選んだ芸人1人を含む5名の参加者に対し、きちんとルール説明をする、など十分に気をつけたことや、医療監修に加えて、実験を伴う収録とインタビューには必ず社員が立ち会うようにした、事実の通りそのまま放送する、などの報告がありました。また「プロダクトプレースメント番組」についての問題提起があり、次回の議題としました。

・第4回（9月14日）

前回に続いて「プロダクトプレースメント番組」について論議されました。フジテレビからネット受けするNUMO（原子力発電環境整備機構）一社提供による特別番組（10月18日放送）に関して、留意すべき課題などが話し合われました。

事例検討では、誤認を期待するような誇大なラテ欄表記で多くの苦情があったことについて話し合われました。また、放送に関連する事業イベントや、さらに裁判員裁判の公判後の裁判員の会見に関して、議論がなされました。

・第5回（10月19日）

第2回オンブズ・カンテレ委員会（10月16日）において、「リアル・クローズ」に関連して委員から質問があった旨報告されました。放送内容やスキームを当社側から委員に説明し、委員からは、「新たな試みを行うのは大切」「作品をしっかり作って欲しい」「販売する製品についての品質管理等もしっかりやっていかなければならない」などの意見が出たことも報告されました。この指摘を受け、放送倫理会議で「リアル・クローズ」について総括的な討議を行うこととしました。

BPO放送人権委員会決定第40号「保育園イモ畑の行政代執行をめぐる訴え」において「重大な放送倫理違反」とする勧告が出され（8月7日）、他系列局事例（M

BS-TBS)ではあるが、学習検討課題としました。自局取材素材が系列局によって恣意的に改竄され人権侵害を引き起こした本事例は速報で8月会議で検討しましたが、その後詳細を得て「勧告」という重い判断が示された真相を学習することで、系列全体の放送倫理上の価値観の共有が必要である、との認識を新たにしました。

・第6回(11月17日)

番組審議会(11月12日「リアル・クローズ」)より「審議」内容の報告を受け、番組審議会・審議内容が遅滞なく放送倫理会議において血肉化されるスタイルの確立が図られました。ドラマ内容への批評と「オンエアリンク」について番組審議会における「期待と批判」両意見が報告されましたので、先の「オンブズ・カンテレ委員会」のご指摘ともあわせ、放送倫理会議でも継続して討議することとしました。

また当日BPO川端委員長から広瀬民放連会長へ手交されたBPO放送倫理検証委員会決定第7号「最近のテレビ・バラエティ番組に関する意見」速報を入手し、学習しました。

・第7回(12月15日)

BPO放送倫理検証委員会決定第7号「最近のテレビ・バラエティ番組に関する意見」を前回に続いて学習討議しました。

「意見書」は「“べからず集”ではなく、面白い物を作りつつ、視聴者に対して不快感を抱かせるようなことは避けなければならない、あくまでも前を向きながら何かをやっているという貴重なメッセージ」との共通認識を確認、「意見書」を制作現場はじめ広く学習する方が検討され、社内シンポジウム企画などを検討中と報告されました。

また、改訂準備中の当社「番組制作ガイドライン」についても、自律と内部的自由によって「べからず集にしない」との基本認識のもと編集されましたが、改訂に際してはBPO意見書の真実をさらに血肉化する方向で充実させたいことを確認しました。

・第8回(1月18日)

ドラマ「リアル・クローズ」の番組連動として試みられた「オンエアリンク」について、成果と課題を総括討議しました。「オンエアリンク」の新しいビジネスモデルの可能性というポジティブな面、さらに放送倫理面の注意点を議論し、次の機会へ向けての課題を洗い出すべく、前回、前々回に続いて討議しました。11回連続ドラマの放送が終了し、オンエアリンクの中間データがまとまったこの時点で、担当部長と関西テレビハズ社長の報告を受けました。

・第9回(2月16日)

第7回「放送倫理会議」での「リアル・クローズ」総括討議の内容も含め、「オンブズ・カンテレ委員会」(第3回1月22日)でのご議論が再度報告されました。委員からは、「ファッションを扱ったドラマでのサービスということで、今回オンエアリンクを行ったことは分かるが、物売るためにドラマが作られてしまうと、視聴者が

そう思うかも知れない。そこをどう考えるかが重要」「副次的な物販が視聴者にメインに見られてしまうと沢山売れたことが良いことで、そのために…という風潮にならないことが確認されるべきだ」「テレビがそのように見られてしまうと、テレビが自分で自分の首を絞めてしまう。これを今後どう生かすかが大事」等のご意見を頂いたことが報告されました。

また、民放連放送基準審議会（２月１２日）「ショッピング番組に関する対応について」の集中討議で「検討の取りまとめ～論点ペーパー」と民放連標準調査票「テレビショッピング調査票」が提示されたことが報告されました。

テレビショッピング調査票については、連盟書式を採用して、当社としてコンプライアンス強化に取り組む旨確認されました。

・第１０回（３月１６日）

BPO放送倫理検証委員会決定第７号「最近のテレビ・バラエティ番組に関する意見」に対応する、民間放送連盟ならびに放送各社の取り組みについて まとめて討議しました。おもな取り組みとしては

- (１) 関西マスコミ倫理懇談会 吉岡忍氏講演会 １月２６日
- (２) 社内パネルディスカッション ２月３日
- (３) 近畿民放１９社共催「放送倫理セミナー」 ３月５日
- (４) 民放連シンポジウム「バラエティ向上委員会」 ３月１１日

を取り上げました。

この他にメディアプルポによる全スタッフアンケート意識調査や「めっちゃイケ」(フジテレビ)でBPO意見書を「ネタ」化(２月２７日)したことがあり、それぞれについて 総括的な意見交換と討議を行いました。

## (２) 「S-コンセプト」他、本社番組制作部門の取り組み

### 1) 番組全般について

番組の編成制作部門では２００９年度も、視聴者の皆様に楽しんでいただける良質の番組をお届けできるように日々努力を続けてきました。

その中でも、当社の放送エリアの近畿各地に「人間国宝さん」を訪ねる「ぶらりあるき」のコーナーが人気を集める「よ〜いドン!」は、平均視聴率が改編前の６．１％から９．５％(３月末現在)と視聴者の皆様の大きな支持を得ることができました。

また、地域の問題、話題を積極的に掘り起こしてきた夕方の報道番組「スーパーニューズアンカー」も好調に推移しており、両番組がベルト番組としてすっかり定着したことは、当社にとりまして大きな財産といえます。

さらに、２００９年４月から月曜１９時に放送しております「冒険チュートリアル」

は、ローカルの1時間番組としては久しぶりのゴールデンタイムでの自社制作となりましたが、地域の皆様の好評を得まして、平均視聴率14.7%（3月末現在）と健闘しております。

上記番組をはじめ4月に取り組んだ改編が徐々に効果をあげて、視聴率は秋口からその勢いを増し、10月から4か月連続で月間3冠を獲得することができ、2009年度上期はゴールデン帯の1冠に留まりましたが、下期は3冠を獲得、年度通期でも後半1位局を猛追した結果、ゴールデンと全日の2冠を獲得しました。

さらに、当社制作の長寿番組「モモコのOH!ソレ!み~よ!」が5月に300回、「快傑えみちゃんねる」は8月に600回を迎えることができました。これらは、ひとえに視聴者の皆様の支持のおかげと認識しております。

## 2) 「S-コンセプト」について

「健康」・「体」・「科学」にまつわる素朴な疑問や関心を科学的な目線で正確に分かりやすく紹介する「S-コンセプト」シリーズは2007年以降、12本を制作してきましたが、2009年度は新たに4本を制作しました。

9月に放送された「100キロカロリーショップ〜大公開!黄金レシピで健康BODY〜」では、カロリーについて分かりやすく説明を加えながら適切なカロリー摂取のためのオリジナルレシピを紹介しました。

番組内では、低カロリーで美味しさも十分な「黄金レシピ」を基にした適正なカロリー摂取により身体にどのような影響が出るのか、実験を通じてカロリーコントロールの成果を発表しましたが、番組の制作に当っては、東京コンテンツセンター制作部のディレクターが、実験を伴うロケのすべてに立会い、万全のチェック態勢で取り組みました。

10月には「緊急招集!体力向上委員会〜いま子ども達のからだ危ない!〜」を制作し、遊び場の減少や塾や習い事などによる自由時間の減少、子どもを狙った犯罪の増加などライフスタイルの変化により低下の一途をたどる子供の体力をテーマに取り上げました。体育の家庭教師の派遣や行政による校庭の芝生化が与える影響や、始業前に有酸素運動をカリキュラムに取り入れた結果、勉学にも好影響を与えた米国の例など体力向上に向けたさまざまな取り組みを紹介しました。

また、2月に放送した「男と女のしあわせ脳研」では最新の脳科学研究で明らかになってきた脳の性差に着目し、地図を描いてもらい、その正確性や特徴から男女の傾向を検証する「地図が苦手な女脳」や、男女の言語表現能力の違いによる「生返事する男脳」を実験などを通じて紹介しました。

さらに4本目として「健康ボディで脱メタボ!レッツトレーニング」を3月に放送しました。

この「S-コンセプト」シリーズでは、2010年度以降も引き続き、科学的な要素を含む番組を視聴者の皆様に正確にわかりやすく伝えるというコンセプトをさらに深

化させていきたいと考えています。

### 3) 受賞関係

当社が開局50周年記念番組として制作放送しました大阪の下町を舞台に何十人も  
の里子を育ててきたナニワの名物オカンと、必死で生きようとする里子たちの姿を描い  
たドラマ「ありがとう、オカン」が平成21年日本民間放送連盟賞 番組部門・テレビ  
ドラマ番組優秀賞を受賞しました。

### 4) 社内シンポジウム

放送倫理・番組向上機構（BPO）が2009年11月に発表した「最近のテレビ・  
バラエティー番組に関する意見」を受けて、当社の制作部員や外部制作会社の社員のほ  
か、社内各部署から計73名が出席し、2月3日（水）シンポジウムを行いました。

シンポジウムは、パネルディスカッションを中心に進行し、意見書に記載されている  
「バラエティーが『嫌われる』5つの瞬間について」をテーマに、ディスカッションを  
行いました。

パネラーからは【イジメや差別】に関しては、「所謂リアクション芸人というジャン  
ルの人たちがいるのも事実」、「芸人を生かすも殺すも演出。事前に丁寧な打ち合わせを  
行っている」などといった発言がありました。

また、【制作の手の内がバレバレのもの】では、「たくさんの人に見てもらいたいのが  
本音なので、CM前で視聴者を煽るようなこともしたが、やめておけば良かったと反省  
しているものもある」などの意見が出た後、出席者らが普通の感性を磨くよう励むこと  
を確認して閉会しました。

## （3） 東京編成制作部門（東京コンテンツセンター）の取り組み

当社の東京における編成制作部門については、2008年7月より編成制作局の中の  
東京編成制作センターとして業務を行っていましたが、2009年6月の機構改革時に  
名称が東京コンテンツセンターとなり、編成、制作、コンテンツ事業の各部署で  
視聴者サービスを主眼に番組のコンテンツ化、マルチユース化にチャレンジしてまいり  
ました。以下に各部署の状況を記します。

### 1) 編成部

編成部は、フジテレビをはじめFNS系列各社との編成調整と番組企画・調整を主に、  
番組販売、番組宣伝を担っています。現在は部長以下、編成・番組販売は副部長1名、  
部員3名、派遣社員1名で、宣伝担当は副部長1名、部員4名、派遣社員1名で業務に

当たっていますが、放送業界を取り巻く市況は依然厳しく、セールス状況も激変を続けており、また、視聴者の多様なニーズに応えるため番組内容や番組尺の急な変更が行われるなどネット番組の調整事項も多岐にわたっています。

そのような中、視聴者皆様の不利益にならないよう、また、当社の営業利益や制作権の確保、コンプライアンスを念頭に日々編成調整を行っています。

2009年度では、10月クールの連続ドラマ「リアル・クローズ」で試みた、出演者の衣装情報とその衣装の購入が可能な仕組み「オンエアリンク」においては、営業調整やこの仕組みを利用した番組宣伝、ブームアップに努めました。

また、2月に放送しました「R-1ぐらんぷり2010」では、本社のメディア事業部と組んで、生放送では初の見逃し動画配信をフジテレビの協力のもとフジテレビオンデマンドで実現いたしました。番組配信に関しては視聴者の皆様の需要も多く、今後も様々な番組でトライしていきたいと考えています。

また、番組販売では、各局が番組購入費を削減する中、レギュラー番組や単発番組のセールス状況は厳しさを増しています。しかしながら、2009年度はかろうじて前年並みの売り上げ実績を残しました。

番組宣伝では、上記のドラマ「リアル・クローズ」で、ファッションブランド・エルメスとコラボレーションで、ファッションショー形式の制作発表を行い話題を呼びました。また、新聞、雑誌などへの広告掲出のほか、交通広告や渋谷の大看板広告展開などを継続的に行ってきています。

さらに2009年度は、単発バラエティ「新競技 芸能人チャンプ決定戦GONG」や「追跡！あのニュースの続き」など、関西ローカルで放送し、好評を得たことから、ゴールデンタイムの番組として全国ネットで放送いたしました。今後もこのように、フジテレビはじめ系列各局と調整しながら、より多くの視聴者に楽しんでいただける番組を提供できるよう努めてまいります。

## 2)制作部

制作部では2009年度も、火曜22時のネット・ドラマ枠を引き続き担当しました。まず、4月クールは「白い春」の制作をメディアミックス・ジャパンに委託(放送権譲渡契約)し、当社はプロデューサー2名、アシスタントプロデューサー1名、チーフディレクター1名が参画しました。

阿部寛が好演し、その娘役に「崖の上のポニョ」の主題歌で人気の大橋のぞみが出演、究極の親子愛を描いたドラマとして、好評を得ました。

7月クールは「恋して悪魔」の制作を共同テレビジョンに委託(放送権譲渡契約)し、当社はプロデューサー1名、ディレクター1名が参画し、高校生の純愛を描いたファンタジー・ラブストーリーで、期待の新人を主役に起用し、ドラマ界の未来を担う俳優の育成に注力しました。



10月クールは「リアル・クローズ」の制作を自社で行い、編成部の項でも触れておりますが、「オンエアリンク」など放送関連のビジネスにもチャレンジしました。

さらに1月クールは「まっすぐな男」の制作をメディアミックス・ジャパンに委託(放送権譲渡契約)し、当社はプロデューサー1名、チーフディレクター1名が参画しました。

自社制作のみならず、制作会社に委託する場合も当社の社員が積極的に制作に参画し、企画から放送までイニシアティブを取りながら、コンプライアンスを遵守してきました。

さらに「グータンヌーボ」「SMAP×SMAP」「ジャーナル(3月終了)」など、レギュラー番組も好調に推移する中、2009年度は、ネット単発「あのニュースの続き」(8月放送)や正月ネット特番「ガチバトル!」などのバラエティー番組を数々制作し、新たなバラエティー番組を企画開発するとともに、次世代を担うプロデューサー、ディレクターの人材育成にも努めました。

### 3)コンテンツ事業部

4月から放送した深夜ドラマ「NEXT」を制作、コンテンツ事業部よりプロデューサーが1名参加、制作部から2名、関連会社(メディアプルポ)から1名参加したプロデューサーと共に、各外注制作会社、タレント事務所との綿密な連携をとり1クール12本の番組の作業を完了しました。また、DVDの制作・発売に関しては番組を担当したプロデューサーが中心となって本社ライツ事業部と連携して作業に当たりました。

6月からの「DRAMADA-J」に関しては、本社制作部のチーフプロデューサー1名、プロデューサー3名、ライツ事業部のプロデューサー1名と共に、無事番組の制作～DVDの発売までを完了しました。特に、今回は18歳未満のタレントが主演となっていることから、ロケ日を土日に設定したり、収録を21時までに終了するなど、法令などに則した業務遂行を心がけました。

8月に放送した単発番組「ギャルネクストラボ」では、系列局、制作会社、通販を扱う子会社の関西テレビハッツ、県域UHF局とともに製作委員会方式で番組を制作、ファッション雑誌の読者に人気のギャル達が自らプロデュースする商品を番組と一緒に開発、販売するという新しい形の番組作りを模索しました。

一方、2009年度の映画事業についてですが、「のだめカンタービレ最終章・前編」と「라이어ゲーム ザ・ファイナルステージ」の2つのFNS27局共同出資映画は、ともに連続ドラマで好評を博した作品の集大成ともいえる作品で「のだめカンタービレ最終章」に関しては、後編も4月17日より公開しています。

中山美穂さんが12年ぶりに女優復帰を果たした夫である辻仁成さん原作の劇場用映画「サヨナライツカ」は、西島秀俊さんや石田ゆり子さんの熱演やイ・ジェハン監督(私の頭の中の消しゴム)の美しい映像が感動を呼んだ作品となりましたが、当社では、フジテレビと共に出演だけでなく、製作段階からプロデューサーも関わってきました。

その他にも、ブログが大きな反響を呼んだ実話をもとにした作品「ブラック会社に勤めているんだが、もう俺は限界かもしれない」の製作にも携わりました。

最後にライツ関連事業ですが、上述のドラマ「リアル・クローズ」において、出演者が着用していた衣装の情報を放送と連動してリアルタイムで視聴者の皆様にご紹介して行くと共に、その衣装を買えるサイトとも連動するという「オンエアリンク」システムを展開しました。

また出版関連では、女性に人気のトークバラエティ「グータンヌーボ」からレギュラー出演者やゲストの名言を抜粋、解説した「グータンヌーボ・女のセキララ名言集 LOVE」を出版しました。

#### (4) 報道部門の取り組み

文字通り歴史的とさえ思われた華々しい夏の衆院選＝政権交代から、坂道を転げ落ちるような内閣支持率急落へと、失望感・混迷感がいや増す政治動静、長引く不況の閉塞感の中で殺伐とした社会的事件も頻発し、そんな騒然とした世情下で裁判員裁判が始まり、一方では新型インフルエンザパニックに、台風・豪雨被害、津波騒ぎと自然環境も乱れ気味で、2009年度もまた、報道現場にとっては大きな事件案件が続発する、多忙な1年となりました。

また、厳しい予算方針に基づき、番組制作費の緊縮化、効率的執行が年間を通じて求められ、種々の日常的経費工夫にも神経を使う環境ともなりましたが、そのような中で報道局は引き続きしっかりと気を引き締め、常に各人が放送人としての使命感や倫理感を高く持ち、視聴者に対して公正で正確な報道を届けるべく、業務にあたってきました。

2007年から進めてきた、日々の作業や社内会議における細密なコミュニケーションを基盤とした、全体的な問題意識や認識の共有も、構内外部スタッフを含め着実に定着しつつあり、個々の局面で発生する取材や放送上での大小様々な問題課題にも、適切かつ迅速な判断で対応することが出来てきています。

##### 1) 「スーパーニュースアンカー」を中心とした日々のニュース報道について

5月のゴールデンウィーク明けから、関西地区に集中するような展開で感染拡大した新型インフルエンザは、取材上の安全衛生面にも配慮しつつ系列局の応援も頂きながら、正確な情報を視聴者に届けることに努めました。更に夏以降も特集企画などを継続的に放映し、正しい知識取得と生活面での注意を喚起しました。

また医療関連報道としてはこの他にも、進行性骨化性線維異形成症（FOP）などをはじめとした様々な難病や、子宮頸ガンなどの注目すべき疾病、或いは薬物依存症の深刻な実態についても、独自の視点で継続的に取り上げ、光を当てました。

5月施行の裁判員裁判については、制度開始前の特集企画放映を通じ視聴者の理解浸透に努め、関西地区でも具体的判例事案が発生してきた9月以降は、司法の可視化・市民感覚の反映という趣旨を踏まえて担当各地裁との間で交渉を重ね、制度自体の課題にも目を配りながら平明な報道を心がけました。

極端な天候変化が頻発する昨今の気象環境ですが、台風9号の影響による8月9日の兵庫県佐用町などの突発的豪雨災害や、10月8日に南紀を襲った台風18号災害などにおいては、発生時から迅速な取材や中継で重層的に報道を行い、現地の状況を詳しく伝えました。

また、いつ起こってもおかしくない大規模地震への報道対応準備として、10月17日にはFNN近畿中四国ブロック各局やフジテレビと連携しての地震報道緊急訓練を実施、11月9日から27日の3週にわたっては連日、当社独自に地震発生時のカットイン放送訓練を行いました。

南米チリの大地震により2月28日、17年振りに発令された大津波警報は、日本全土の太平洋沿岸部などに影響・被害を及ぼすことが懸念され、FNN全社を挙げての特別番組対応となりましたが、当社も南紀方面を中心に迅速に中継・取材体制を組んで情報を伝えました。幸い大きな被害にはなりませんでしたが、今後の大地震等緊急災害時の報道対応における課題や問題点を改めて検証し直す貴重な経験となりました。

2007年に千葉県で発生したイギリス人女性殺害事件で、現場から逃走、顔を整形しての逃亡生活を送っていた男性容疑者が11月10日大阪南港で身柄確保・逮捕されましたが、同日夜の新幹線などによる千葉県への移送においては、新大阪駅を含め各地で取材現場が混乱する状況となりました。当社のみならず全報道メディアにおいて、速報性ととも報道姿勢の適正さなどについて改めて課題が残った事案となりました。

2009年度で最大かつ最も重要な案件となったのは、夏の終わりに行われた衆議院選挙でした。政権交代が現実のものとなったこの選挙では、これまでも増して公正・正確を期すとともに、選挙の争点を明確化するための解析的視点に立った報道も心がけました。当日の8月30日には投票終了の20時直前から5時間余りの大型開票特別番組「FNNスーパー選挙2009 審判の日 どこで誰が、未来を変えるのか？」をFNN系列全局による共同制作にて放送しましたが、当社は同特番内の3時間余りを関西の視聴者に特化した独自の視点でお伝えし、地域に密着した情報提供も心がけました。また劇的な変動で得票環境が流動的な状況の中、当選確実表示についてはFNN系列全局で全く誤報を出すことなく放送し、視聴者の信頼に応えることが出来ました。

圧倒的な支持を受けてスタートした鳩山連立新政権でしたが、期待された政治改革について目覚ましい進捗もほとんどなく、急速に失速感の増す行政対応が目立ち始め、一向に改善されない不況・雇用不安の中で閉塞感がより高まるような環境となっていました。そのような中で日々のニュース番組では、ホームレス医療や貧困ビジネス、介護事業や待機児童の問題、或いは地方自治体や中小企業などを巡る厳しい個々の現状など

を、地に足のついた取材で継続的に伝え、徒に政局の動静のみに捉われ過ぎることなく、問題点の本質を出来るだけ明らかにするような報道を心がけました。

## 2) ドキュメンタリー番組、及びその他単発番組の制作について

2009年度は、昨年が続いて制作した報道局保存アーカイブ素材編集番組「市電が走った昭和の大阪」を含め、下記の7本のドキュメンタリー作品を制作・放映しました。

- ・ 4月29日放送「父の国 母の国 ーある残留孤児の66年ー」
- ・ 7月20日放送「希望って何? ～不安社会を生きる若者たち～」
- ・ 11月15日放送「あの日の僕に出会えたら」
- ・ 12月27日放送「市電が走った昭和の大阪」
- ・ 1月16日放送「震災15年 神戸・御蔵通りからーまだ見ぬ復興の夢を追ってー」
- ・ 3月22日放送「淀川2009ー2010 ～知られざる生命の営み」
- ・ 3月30日放送「報道スペシャル 手紙 交通事故ーそれぞれの10年」

4月に放送した「父の国 母の国」は、現在も矛盾を内包したままの中国残留孤児問題に改めて光を当て、その厳しい社会環境の中で生きる残留孤児の苦悩と誇りをしっかりと描き出した作品で、芸術祭優秀賞、ギャラクシー賞奨励賞、坂田記念ジャーナリズム賞など多くの賞に輝くなど、各所で高い評価を頂きました。この作品は慌ただしい日常の報道取材の中から生まれてきたものでもあり、文字通り報道局全体の総合力の成果であると言えます。

また3月放送の「淀川2009ー2010」は、報道映像部カメラマンが総力を挙げ、1年間にわたる長期取材を積み重ねる中から、様々な淀川の姿を映像詩的な作品にまとめあげるといふ新しい試みであり、その素材の一部は「スーパーニュースアンカー」内でも随時放送されましたが、その中から「淀川の巨大ナマズ 知られざる生態」が関西写真記者協会の協会賞(グランプリ)を、また「真夏の夜空を見上げて～淀川花火大会」が同銀賞をそれぞれ受賞しました。

その他受賞関連では、11月放送の高次脳機能障害を取り上げた作品「あの日の僕に出会えたら」がギャラクシー賞奨励賞を受賞、更に前年度に放送した作品ではありますが、2008年7月放送の作品「路地裏のバレリーナ」で、撮影を担当した報道映像部所属のスタッフに対し、日本映画テレビ技術協会の映像技術賞奨励賞が授与されました。また、2009年1月放送の海外取材作品「天のゆりかご～世界の屋根パミールに生きる～」が、アジアテレビ祭で審査員推賞、更にヒューストン国際映画祭で審査員特別賞を受賞し、国際的評価を頂きました。更に、前年度に「スーパーニュースアンカー」や「Sーコンセプト」で重層的に展開した食物アレルギー関連の取材・報道に対しては、ギャラクシー賞の報道活動部門選奨が授与されました。

これら一連の受賞成果は、日常の報道活動や作品制作活動を通じ、報道現場の各スタッフが日々研鑽に努め、報道人としての意識を高めて業務に当たる中で生み出された結

果であることを素直に喜び、今後も更に精進努力を重ねていきたいと考えています。

さらに3月に報道スペシャルとして放送しました「手紙」は、長年にわたって交通事故被害者の現状について継続的に取材を重ねてきた中から生まれたもので、この番組放送に先立ち、取材の中で関わらせて頂いたNPO団体いのちのミュージアムとの共同主催により、当社1階の公開空間であるアトリウムを会場に、事件事故の被害者遺品の展示イベント「生命（いのち）のメッセージ展」を開催するなど、社会活動的展開にも広がるものとなりました。

1月放送の「震災15年 神戸・御蔵通りから」は、15年を経過した阪神・淡路大震災を、ボランティア活動のありかたの変容や課題など、これまでとは少し異なる視点から掘り下げ、問題提起を行いました。

阪神・淡路大震災についてはこういったドキュメンタリー番組とは別に、発生翌年から1年も途切れることなく放送を続けている、発生時刻での追悼生中継特別番組「この瞬間（とき）に祈る」を15周年となったこの年も1月17日早暁に放送し、震災の記憶を新たにするとともに、これも毎年恒例となった防災特別番組「巨大地震・未知の揺れー阪神・淡路大震災から15年」を、1月16日午後放送し、改めて地震や津波などの大規模災害への日常的警戒意識の強化を視聴者に呼びかけました。

### 3) 「編集長メモ」など社内・局内意識の向上へ向けて

コンプライアンス担当者を通じて、報道・スポーツ現場の社員・外部スタッフに対するコンプライアンス関連の情報提供、及び情報開示を目的としてメール配信してきた「編集長メモ」は、引き続きほぼ週1回のペースで継続して届けられており、現場記者やカメラマン、編集部門のみならず、管理職、デスクを含めた全体の問題意識共有、倫理意識向上などに有効に機能しています。

2009年度で特に注目すべき案件となった裁判員裁判についても、具体的事案が関西地区でも始まった9月以降、現場から上げられてきた細かな情報を基に、この「編集長メモ」を通じて取材上での留意点などについて明瞭かつ詳細に注意喚起を行っていますが、それとは別に制度開始に先駆け4月に、当社報道局独自に「裁判員制度と事件報道」という解説小冊子をまとめ、報道局主催で積極的に社内勉強会を開くなど、全社的に放送上での同制度の扱いなどの留意点について認識を共有することに努めました。

### 4) 海外取材体制、及び放送インフラの整備について

現状の報道展開において、極めて重要な部分を担うヘリコプター取材ですが、2009年度の4月から運航担当航空会社が、変更になりました。この変更に当たっては特に安全面の維持と確実な業務運営に向け、綿密に調整・交渉を重ね、また運航開始以降も航空会社サイドと日常的に細かくコミュニケーションを取って、安全でスムーズな飛行取材を日々行っています。

一方、2010年11月から新たに運航開始をする予定の次期ヘリコプターAW139についても、現行ヘリコプターから引き続き運航業務を担当することになる航空会社、及び同機導入の代理店業務を担った会社などと、より高度な安全面と取材面の向上を目指し、きめ細かく調整・交渉を行い、また12月からは長期間の綿密な操縦・整備訓練を着実に重ねるなど、順調に準備を進めています。

よりグローバルな情報流通が求められている近年の報道活動において、その前提となる海外取材態勢については、FNNとして戦略的にその拠点を設置しており、当社はその中で、上海、クアラルンプール、ベルリン、パリの4つの支局に人員を配置して責務を担ってきました。しかし、FNNとしての総合的見地から全体的な見直しが行われる中で、東南アジア、南アジアの取材体制をこれまでのバンコク、クアラルンプールの2拠点体制からバンコク1拠点に統合する判断となりました。クアラルンプール支局については3月31日をもって、支局機能を停止することとなり、当社の担う海外拠点は3つとなりましたが、今後も引き続きFNNにおける海外戦略態勢の中で、責務をしっかりと担っていきます。

## (5) スポーツ部門の取り組み

スポーツ局では2009年度もより良質な番組を制作・放送することでスポーツ文化の発展に寄与できるように、また特に関西に縁のあるスポーツ選手をとりあげて、より地域のスポーツ文化の発展に貢献できるように努力しました。

またさらに一層視聴者の方々に信頼していただくべく、スポーツの持つ華やかな面、またその裏に隠れた選手たちの努力、情熱、苦しみや、これまで知られていなかった事実などを伝えていくことで視聴者の方々にスポーツ選手の真の姿、そしてスポーツのもつ夢や楽しみ、勝負のアヤや醍醐味などを感じてもらえる番組制作を目指しました。主なものを順に記します。

### 1) 野球関連

阪神タイガース、オリックス・バファローズのホームゲームやアウェイの試合を多数放送しました。10月4日の甲子園での最終戦を含め中継番組数はあわせて25本にのびりました。これらの中継放送により視聴者の方々に選手の活躍、喜び、苦しみを伝えていくことが出来たかと思えます。特に5月4日の阪神—巨人戦は関西の視聴率が20.5%をマークし、2009年度の野球中継の関西地区最高視聴率を記録しました。

そして、10月10日(土)には「2009年プロ野球総決算 シーズン反省会&クライマックスシリーズ大予想SP!」を放送。シーズン初めの解説者たちの順位予想を振り返って、実際の順位との相違などを紹介し、各出演者の意見などを面白く紹介、そ

のうえでセ・パのクライマックスシリーズの勝負の予想を紹介し、ファンの興味を高揚させるように努めました。

また、12月31日には「2009プロ野球大忘年会SP! & 関西駅伝No. 1 決定戦」を放送し、シーズンをすべて振り返り、阪神・金本知憲選手と打撃コーチとして阪神タイガースに復帰した片岡篤史氏とのトークや野村克也氏のとある日常生活などを紹介したり、関西にあるスポーツチームの面々が駅伝を競って、普段とは違う側面を紹介し、視聴者に楽しんでもらいました。

2010年に入ってから、1月9日には「ボク達同級生! プロ野球40年会 vs 48年会」を放送し、プロ野球界の昭和40年生まれと48年生まれの選手やOBらが繰り広げる爆笑対決を紹介するとともに、吉田えり選手も特別参加して視聴者の方々に出演者のいろいろな側面を楽しんでもらいました。

また、2月27、28の両日、高知県での阪神一オリックス（安芸市営球場）、オリックスー阪神（春野球場）オープン戦を中継放送しました。28日の放送はチリ大地震の津波の影響によるFNN報道特別番組が入り、深夜の放送となりましたが、シーズンに入る前の両チームの仕上がり状況や戦力を紹介することができ、野球ファンに喜んでいただけたと思います。

そして年度末に近い3月23日には「ナックル姫 吉田えり18歳の挑戦」を制作、放送、18歳の吉田えり選手がアメリカに渡り、独立リーグのアリゾナウインターリーグに参加、ボストンレッドソックスのウエイクフィールド投手からナックルボールのコーチを受けるなどのシーンを紹介しました。

2010年4月23日からスタートした女子のプロ野球が話題になっていますが、いち早く先駆者の吉田えり選手を取材し、女子のプロ野球の紹介もでき、野球ファンに新たな興味を呼び起こせたと思います。

## 2) 競馬関連

4月の桜花賞、5月の天皇賞、6月の宝塚記念、10月は秋華賞、菊花賞、11月にはエリザベス女王杯などG-Iレースを中心とした「ドリーム競馬」のレギュラー番組に加えて、土曜日の深夜帯での競馬の予想を中心にした「サタうま!」は、月1回の企画に対しての有料メール会員が着実に増えるなど人気上昇しています。両番組ともに競馬ファンの視聴者に楽しんでもらえたものと思います。

また10月にはドリーム競馬のスペシャル版として「第88回凱旋門賞完全中継」を敢行し、競馬ファンの方々に世界No. 1ステージの競馬を紹介しました。

12月28日には毎年恒例の明石家さんまと杉本清の「さんま清の夢競馬」を放送、2009年の競馬を振り返って総括するとともに、1月9日には2009年のG-Iレース集を放送しました。

そして1月には18年間続いた「ドリーム競馬」を一新、「競馬beat」としてリ

ニューアルしました。スタジオの出演者も総入れ替えで生まれ変わり、競馬の新しいファン層の開拓に寄与できるように努めました。

### 3) 単発番組関連

#### ・ゴルフ

5月に中継放送しました「2009三菱ダイヤモンドカップゴルフトーナメント」ではプロ入り17年目の兼本貴司選手がB. ジョーンズ選手とのプレーオフの末、初優勝を飾るといふ展開となりました。苦労を重ねたプロゴルファーの技術、精神力、そして努力が実って優勝したという喜びをありのままに映し、見る人たちにも感動を覚えてもらうことができたと思います。

#### ・サッカー

7月にサッカー中継の数が少なくなった中で、ナビスコカップの決勝、万博競技場でのガンバ大阪と横浜Fマリノスの対戦を放送し、サッカーファンの方々に楽しんでもらったものと思います。

#### ・陸上競技

11月には「神戸女子全日本ハーフマラソン」を録画中継し、恒例になったこのレースを2009年も紹介しました。

そして1月には、第29回目を迎えた大阪国際女子マラソンを生中継しました。大阪の冬の顔となったこの大会では、今年優勝を期待された赤羽有紀子選手らの激走を伝えました。赤羽選手は足の故障が影響して途中リタイアとなってしまいましたが、この大会10回目の出場となる小幡佳代子選手とルーマニアのリディア・シモン選手の活躍や、初マラソンの選手らのがんばりも余すところなく伝えました。

#### ・セパタクロ

11月には、あまり一般には知られていない“セパタクロ”という種目を取り上げ日本代表選手の試合を当社のアリーナで開催し、番組収録・放送をし、マイナーなスポーツを紹介することで馴染みのない種目への関心も喚起するように努めました。

#### ・アメリカンフットボール

12月21日には社会人のアメリカンフットボール「Japan Xボウル」を録画中継し、鹿島と富士通の決勝の興奮を届けることができたと思います。

#### ・春の高校バレー

2月6日から21日まで近畿2府4県の男子・女子高校バレーの地区予選決勝を録画放送し、高校生バレーボーラーたちの活躍、感動を伝えられたと思います。また、この全国大会に先立ち「春の高校バレー・コーチングキャラバン」企画を今年も制作、放送しました。

「葛藤の先に～金光大阪高校バレー部 探し続けた勝利の方程式」と題し、元全日本代表の佐伯美香さんをコーチに招いて、金光大阪女子バレーボール部の部員たちが近畿



地区予選大阪大会の決勝に向かうべく頑張る姿のドキュメンタリーに仕上げました。

残念ながら金光大阪は決勝にまで進むことはできませんでしたが、テレビカメラの取材を受け放送を見た部員たちには、貴重な一生の思い出として心に刻まれたことと思います。

#### ・総合

8月22日 15時から75分番組で「陣スポ！関西超スゴ・アスリート10連発！」を放送しました。

関西に馴染みや縁のあるスポーツ選手を10人取り上げて、世界レベルにある技術や独自のスポーツ観を紹介することにより、関西のスポーツ界の力を認識してもらい、見ている方々にも地元のスポーツ界を再認識していただく機会となりました。

また3月13日（土）には、この番組の第2弾として「陣スポ！2 関西が誇る日本一〇〇なアスリートSP」と題し、さらに10人のアスリートを紹介し、そのパワーやテクニック、パフォーマンスの高さなどを紹介しました。野球やサッカーなどの他に女子重量挙げや子供のテコンドーなど、普段あまり馴染みのない種目にもスポットを当て、各競技をより身近に感じてもらうことができたと思います。

10月12日の体育の日に“科学”をテーマにしたSーコンセプトをスポーツ部で担当し、幼稚園児や小学生の体力の低下をテーマに取り上げ、子供たちの運動能力を向上させる取り組みをしているドイツや日本の幼稚園などを紹介しました。そして、日本の将来を背負う子供たちの体力向上を目指し、問題提起を行いました。

1月17日には、「激白！スポーツ名勝負のナゾ 石川遼からカール・ルイスまで」と題して全国ネットで放送し、スポーツ界の名勝負に隠されたこれまで知られていない事実を紹介しました。特に陸上のスーパースター、カール・ルイスとベン・ジョンソンのドーピングにまつわる2人の因縁の勝負を振り返り、ベンのインタビューVTRをカールに見せ、メッセージのやりとりを実現させるという世界で初めての試みを実現させました。

また、柔道の谷亮子選手が敗戦となった試合の知られざる事実を紹介するなど、スポーツファンはもちろん視聴者にとっては興味の尽きないシーンを紹介できました。

#### ・スポーツドキュメンタリー

3月8日に「高橋大輔 銅メダルへの軌跡～知られざる4年間の道～」と題して、フィギュア競技で8位に終わったイタリア・トリノでの冬季五輪からバンクーバー冬季五輪で銅メダルを射止めた高橋大輔選手の4年間の道のり取材し、放送しました。

膝の大怪我を乗り越えて、精神的な成長も成し遂げ、世界選手権では金メダルも獲得した高橋選手をタイムリーに放送することができました。フィギュアファンのみならず、視聴者の皆様には、大いに感動してもらえたものと思います。

以上のように2009年度も、より良質でより親しみを感じてもらえるように、また

関西に密着した番組を制作することにより、より地元の視聴者にスポーツでの活性感を得てもらおうとがんばってきました。

もちろん番組の制作のチェック体制もより一層の徹底を図ってきました。部員一人一人の自覚、放送倫理に対する意識が大切であるという認識をより徹底させていくために、毎週1回のデスク会や月1回の局会を欠かさず行い、管理職とプロデューサー、また番組のスタッフが意見・情報の交換を行い、番組制作の進行状況などを説明して、問題点がないかどうかのチェックとさらなる問題意識の向上を目指しました。

またこれまで同様、どうすれば番組がより良くなっていくかの議論を絶え間なく行うよう心がけました。

2010年度もこれらの意識をさらに細心の注意を払って高めていき、より以上にスポーツ文化の発展に役立てる番組を制作、放送するように努めていきます。

## (6) メディア戦略部門の取り組み

2009年6月の機構改革により、従来のクロスメディア事業局のうちインターネットやワンセグ等を中心とした分野と、他局に属していたナレッジキャピタル推進部門が、新たにメディア戦略局として業務をスタートしております。

そのような状況下、携帯電話関連事業では、携帯会員のサービス向上を目指して番組DVDやノベルティなどをプレゼントする企画を「白い春」、「恋して悪魔」の火曜ドラマやローカル番組で実施、出演者による番組内告知が奏功して視聴者からの支持を得た結果、携帯会員増に繋がりました。また、サービス向上を目指して「にじいろジーン」ジーンちゃん絵文字配信や「グータンヌーボ」メルマガ限定プレゼントなどを実施しました。

さらに3月には「ケータイDEカンテレー」のサイト構成を全面的に見直し、直感的にユーザーが見たい「おすすめ」、「番組」、「情報コンテンツ」、「プレゼント」を並列のタグで操作できるようにリニューアルするとともに、準備を進めていた携带着せ替えサービスサイト、「キセカエDEカンテレー」を3月1日からNTTドコモにて配信を開始しました。

また、動画配信では業界初となる全国ネット生番組の見逃し動画「R-1ぐらんぷり2010」を2月27日からサービスを開始し、3月末以降、過去に放送された2002年～2009年の「R-1ぐらんぷり・アーカイブ」を順次配信開始しました。

データ放送の分野では、2010年の正月特番と連動した「福袋deカンテレー」企画を実施し、対象番組でのプレゼント告知などを行ないました。そして1月31日放送の第29回大阪国際女子マラソンでは瀬古利彦氏によるデータ放送のみの特別解説を実施し、好評を得ました。

一方、デジタルアートのクリエイターを発掘するイベント「BACA-JA」は10月28日に発表会を実施しました。本選よりも参加基準を緩和し、将来の「BACA-JA」参加を促す「子BACA-JAナイト」を12月11日、大阪市内のアートカフェで実施しました。

さらに、ニューメディアを使ったアート作品の展示プロデュースや、インターネットを利用した実験的アート作品のコンテストプロデュースなどの取り組みを発信する「KTV NEW MEDIA LAB」のサイトを立ち上げました。

また、メディアアート関連では、ナレッジキャピタル推進部が中心となり、市民（視聴者の皆様）へ向けたイベント等の展開を以下のように行いました。

・トランスフォーマーまつり（6月14日）

パラマウントピクチャーズからの依頼による映画「トランスフォーマー リベンジ」のプロモーションイベントをアトリウムと天神橋筋商店街で実施しました。関西の芸術系大学（京都造形芸術大学・大阪芸術大学・神戸芸術工科大学）の協力を得て、世界的に流行していた「トランスフォーマーのコスプレ大会」を展開し、キッズプラザに来ていた子供たちやファミリーなどに楽しんで頂けたと同時に、参加した学生たちに作品発表の場を提供、また、天神橋筋商店街の活性化にも協力できました。

・ロボットショールーム（8月3日～9日）

大阪市などが主催する「ロボットショールーム」をアトリウムに誘致しました。大阪が世界に誇るロボットの数々を一堂に展示し、来場者に見て・触れて体験出来る楽しさを提供するとともに、大阪のロボット技術水準の高さを認識してもらえる良い機会を当社がコーディネートできました。

・夏休みキッズみんぱく（8月22日～30日）

国立民族学博物館からの依頼により、特別展のプロモーションイベントを当社のアトリウムで展開、メディアアートの手法を駆使して「カナダ先住民の世界」を子供たちにも分かりやすく、親しみを持ってもらえるよう演出しました。夏休みで賑わっていたキッズプラザ来場者からも多くの子供たちに見てもらい、体験・参加型のインタラクティブ展示を十二分に楽しんで頂きました。

・「メディアアート」の魅力を番組で紹介（11月7日）

当社は2007年より、「メディアアート」界の世界最高峰であるオーストラリア・リンツ市の「アルスエレクトロニカ」（以下、ARE）と業務提携しています。2009年に30周年を迎えたAREと、そこに展示されている様々な「メディアアート」作品を取材・撮影するとともに、当社が「メディアアート」に関連した展示施設運営で参画を予定している梅田北ヤードのナレッジキャピタル計画の紹介を含んだ番組「ヨーロッパ“最先端アート”への旅」を地上波とBSフジで放送し、最先端の技術とアートを融合した「メディアアート」の魅力を紹介しまし

た。

メディア戦略局では、2009年度において、これまで記載しましたようなインターネット事業等の実施に関する社内規程の整備をはかるとともに、様々な権利関係を適切に処理し、契約書などの作成も関連各部署との緊密な協議を重ねて遺漏のないチェックをおこなっております。

またWEB、携帯を通じて取得する個人情報の管理については、各担当者が適切に管理できるようなシステムを導入しており、アクセスされる方々の安全を第一に考え業務を行っており、今後も引続きこのような態勢で、真摯にメディアの可能性を拡げていきたいと考えております。

## (7) ライツ関連部門の取り組み

6月の機構改革により、クロスメディア事業局の業務のうち映画、DVDやライツ関連事業を中心とした分野を担うライツ開発局が設置されました。地上波放送と関連する様々な他媒体との相乗効果等をめざして、視聴者の皆様により充実したコンテンツを多様な方法でお届けしており、2009年度におきましても、以下のような事業を行ってきました。

### 1) 映画事業 (当社出資作品)

#### ・「南極料理人」

地球でいちばん寒い場所に、究極の単身赴任——南極観測隊の料理人を務めることになった海上保安官・西村淳氏が体験を綴った著書を映画化、切なくて結構面白い男ばかりの日常を追いかけたハートウォームコメディです。

2010年4月の第1回「日本シアタースタッフ映画祭」では、主演の堺雅人さんと沖田修一監督（主演男優賞／監督賞）がダブル受賞を果たしました。

出演：堺雅人 生瀬勝久ほか 公開：8月8日

#### ・「ブラック会社に勤めてるんだが、もう俺は限界かもしれない」

高校中退でニートのマ男はプログラマーの資格を取得、小さなIT企業に何とか就職する。しかしそこは想像を絶する「ブラック会社」だった——！ 2ちゃんねるの書き込みから生まれた実話を書籍化・映画化した話題作です。

出演：小池徹平 品川祐ほか 公開：11月21日

#### ・「サヨナライツカ」

女優・中山美穂12年ぶりの主演映画となる本作は、原作が中山の夫君でもある辻仁成、監督を「私の頭の中の消しゴム」のイ・ジェハン（韓国）が務める豪華版で、恵ま

れた人生を送り、理想的な婚約者がいるにもかかわらず、自由で刺激的な生き方を象徴する謎の女と出会ってしまった好青年・豊は — 生涯あらゆる場面でだれもが遭遇する「選択」の意味を問いかける、究極のラブストーリーです。

出演：中山美穂 西嶋秀俊 石田ゆり子 ほか 公開：1月23日  
(フジテレビ、FNS系列出資作品)

- ・「アマルフィ 女神の報酬」
- ・「のだめカンタービレ 最終楽章 (前編)」
- ・「ライアーゲーム ザ・ファイナルステージ」

## 2) レギュラー・単発番組等

- ・「VIDEGRADIN (ビデグラジン)」

ライツ開発局ではバラエティー、ドラマ、スポーツ、記録映像など数多くのDVDソフトを企画製作・発売しています。当社発のDVDソフトの魅力を視聴者にお伝えし、もっとよく知ってもらおうと、この番組を制作しました。7月から3月まで、毎週水曜日深夜に放送しました。

2009年・2010年の「R-1ぐらんぷり」で2年連続準決勝進出を果たし、海外公演にも挑戦するなどいま話題のピン芸人・ナオユキさんが番組の進行を担当、部屋で一緒にDVDを観賞しているかのような独特の空気感で、視聴者の皆様の好評を博しました。

- ・アニメ「くるねこ」(シーズン1)

名古屋在住のブログ作家・くるねこ大和さんの愛猫たちとの毎日を描いたブログ「くるねこ」が、人気ブログランキング・イラスト部門の1位に。それがコミック本化され大ヒット —。

ユニークな経緯で誕生したこの作品の魅力をさらに広く伝えようと、当社・角川映画・東海テレビなどが業種を越えて制作委員会を形成、動画作品として完成させたのがアニメ「くるねこ」で、現在当社と東海テレビにて放送中です。

また、放送されたアニメに特典映像などを加えたDVD版「くるねこ」も発売開始、12月、3月とすでに2巻が出ており、以降3ヵ月ごとに発売予定です。

さらに、可愛い猫たちが魅力の「くるねこ」からはぬいぐるみや小物類など多数の関連キャラクター商品も誕生しヒット中で、皆様のご好評をいただいております。

- ・ドラマシリーズ「NEXT (ネクスト)」

次の世代を担う4人の女優にスポットをあて、ご紹介していくドラマシリーズで、4月から6月まで、毎週木曜日深夜に放送しました。主演は岡本杏理、恒吉梨絵、前田典子、清水由紀の4人で、1週目はドラマに先立ち女優たちの素顔に迫り、続いて2回にわたりドラマをお届けするというシリーズ構成で、10月にDVDも発売開始しました。

- ・ドラマシリーズ「DRAMADA-J」

2008年度に制作・放送した「DRAMATIC-J」に続き、関西ジャニーズ Jr. の魅力をお届けするドラマシリーズ第2弾で、7月から9月の毎週木曜日深夜に放送し、関西地区限定の青春ファンタジードラマとしてご好評をいただき、2月にDVDも発売開始しました。

・番組「GNL（ギャル・ネクスト・ラボ）」

新しい情報、新しいテレビの楽しみ方を視聴者に提案する試みとして制作しました。登場するのは藤田志穂・益若つばさら、いまマスコミなどで話題の「ギャル」たちで彼女らのライフスタイルをVTRでレポートしながら、視聴者には同時に、彼女らが自分のアイデアで開発した番組だけのオリジナル商品を購入してもらうこともできるという企画です。

KTVオンラインモール等を通じて、扇子・ガウン・化粧ポーチ・携帯充電器「パワレボ」・ストーンブレスの5アイテムを販売し、広くご好評をいただきました。

### 3) ドラマ「リアル・クローズ」での「オンエアリンク」の試み

10月から12月に放送された火曜日22時枠ドラマ「リアル・クローズ」（出演・香里奈 黒木瞳 ほか）で、番組に関連するファッション情報を放送と同時進行で視聴者の皆様に提供し、さらに出演者着用の衣装をPCや携帯を使いオンラインで購入できるシステム「オンエアリンク」を実施しました。

ドラマでは、百貨店の婦人服売り場を舞台に、最先端のファッションを扱う世界で生きる主人公の成長ぶりを描きました。今回の企画は、PCや携帯といったテレビとは別のメディアとの相乗効果で、ファッションやドラマの世界に視聴者により興味を持っていただき、ブームアップしようと意図したものです。

番組の放送は10月13日から12月22日の全11回で、「オンエアリンク」には計15社26ブランドが参加し、毎回40アイテム前後のファッション情報を提供しました。オンライン情報ページへのアクセスはドラマ放送中から放送直後にかけて毎分5000～10000pv.以上、最多時で1分あたり20000pv.を超えるなど視聴者の皆様の関心の高さを示し、当初の企画意図を実現することができました。

### 4) DVD（ブルーレイ）の製作・発売

2009年度は合計46タイトルのDVD（一部はブルーレイ）を製作・発売し、過去最多のタイトル数となりました。当社制作のドラマでは、「トライアングル」「白い春」「恋して悪魔 ～ヴァンパイア☆ボーイ～」「リアル・クローズ」のレギュラー全国ネットドラマをはじめ、「ハンサム★スーツ THE TV」「サムライ転校生」「NEXT」「DRAMADA-J 未来はボクらの手の中に」「DRAMADA-J そこにいるボギー」「DRAMADA-J 望月VOGETSU」「DRAMADA-J いつかの友情部、夏。」などがDVD化されました。

また、ドキュメンタリー作品では「類人猿ボノボの棲む森で」「天のゆりかご～世界の屋根パミールに生きる～」の2作を、スポーツでは「不滅の歴史 甦る！ 阪急ブレーブス～オリックス・ブルーウェーブ」「ターフの魔術師・武邦彦～華麗なる競馬人生50年～」「猛虎の魂2009～阪神タイガース苦闘の中の道標～」「吉田えり17歳 職業・プロ野球選手」「遠藤保仁 ヤットスタイル」「中央競馬G1レース2009総集編」を、さらにバラエティー、その他では「11人いる！」「京都・祇園祭」「ヨーロッパ企画の町内会ディスコ」「ガガガと響く神戸の街～コザック前田&ガガガSP復活ドキュメント」「よ～いドン！ Presents 矢野・兵動の懐かしいモノ見学」①②「BANANA FISH」「パミール高原 葱嶺（そうれい）」（ブルーレイ作品）「みうらじゅん いとうせいこうTV見仏記」⑪～⑬「京都・町歩き<洛北>」「京都四季百景」（ブルーレイ作品）「昭和の街を走った市電シリーズ」①京都市電 ②大阪・神戸市電「ルー大柴の藪からスティックそば屋」「哀川翔 俺たちのキャンプ～実録！ 死ぬ気で遊ぶ2泊3日～」「京都・町歩き<洛南>」「くるねこ」①「紗綾プライベートジャーニーin 北海道～紗綾と遊ぶ夏休み(1)ドキドキ温泉編～」「R-1ぐらんぷり2009」「自転車野郎 大阪⇒東京激走録～団長安田が挑んだ2Days550キロ～」「紗綾プライベートジャーニーin 北海道～紗綾と遊ぶ夏休み(2)ドキドキふれあい編～」「彼女の部屋RROOM1・ROOM2」「くるねこ」②「紗綾プライベートジャーニーin 北海道～紗綾と遊ぶ夏休み(3)ドキドキ体験編～」以上の作品を製作販売しました。

## 5) 書籍・CD・グッズ事業

書籍の分野では、「ドラマ『トライアングル』ノベライズ本」「グータン・ヌーボ 女のセキララ名言集LOVE」を、CD製作では、音楽情報番組「ミュージック」司会者・杉本有美さんのデビューCD「ハルコイ」をDVD付きの「蝶タイプ」と写真集付きの「花タイプ」で発売し、ビビアン・スーさんが歌う、アニメ「くるねこ」の主題歌CD「Beautiful Day」を発売しました。

また、グッズ事業として、当社の各番組関連グッズ製作・発売のほか、2003年以来協力関係にある劇団四季の「美女と野獣」京都公演において「美女と野獣グッズ」を販売継続中です。

上記しました当社の映画出資・ライツ開発各分野においては、著作権その他権利関係を適切に処理し、契約書等の文書作成は担当者がライツ業務部・編成制作業務部・コンプライアンス推進部法務担当ならびに社内弁護士と緊密な協議を重ね遺漏のないチェックを行っております。

また映画・DVD・書籍・グッズ各事業について社内規程を見直し、7月以降一部改正を行い、映画事業では社内合意についての新たな基準を設けるなど、より厳正な規程に基づき業務に取り組んでおります。

## (8) 技術部門の取り組み

### 1) デジタル化への取り組みについて

#### ・放送システム・デジタルマスター更新について

放送局の心臓部であるマスターの放送システムの更新が無事完了しました。7月13日の放送終了後、新システムに切替え、14日からは、新放送システムで放送を開始しています。この30年間に実施したマスター更新及び地上デジタル放送対応による大規模マスター改修の中で、最もスムーズに切替りました。今回更新したシステムは、HDをベースとしたシステムで、アナログ放送などアナログ信号を必要とする部分は、大半がHD信号をダウンコンバートしたもので対応するデジタル放送に軸足を移した完全HDの放送システムです。さらに、2011年7月に予定されています完全地上デジタル放送への移行のため、アナログ終了告知などきめ細かくアナログ終了対策に対応できるシステムとなっています。また、放送システム更新と合わせて、編成系、営業系、放送系の情報処理の中心となる営放システムの更新も実施しました。系列標準の営放システムの採用と当社仕様へのカスタマイズにより、安全性や操作性が向上するとともに、FNS系列の編成系、放送系の情報連携機能強化に貢献しました。

#### ・デジタル中継局置局について

2009年度もデジタル放送エリア拡大のため、中継局を建設しました。兵庫県では22局（中継局：8局 ミニサテ：14局）、京都府では2局（ミニサテ：2局）、大阪府では4局（中継局：3局 ミニサテ：1局）、滋賀県では5局（中継局：2局 ミニサテ：3局）、奈良県では2局（ミニサテ：2局）、和歌山県では15局（中継局：6局 ミニサテ：9局）の合計50局を置局致しました。これにより当期までに合計98局の中継局を建設しました。この結果、近畿地区のデジタル放送の受信可能世帯は約791万世帯となり、エリアカバー率は約95.9%となりました。

### 2) 放送事故防止対策、安心安全対策への取り組みについて

#### ・マスター設備での取り組みについて

7月14日の放送システムの切替後、それまで使用していたアドオンマスターのデジタル部分を利用して、第3系マスターを構築しました。第3系マスターは、現用・予備システムのバックアップとして、放送事故防止にも寄与していますが、複雑な放送運行のシミュレーションや放送部員のスキルアップのためのトレーニングに放送終了を待つことなく、昼間の時間帯での実施に活用しています。また、放送システムの改修工事や新システム導入時の結合テストなども放送中の実施が可能となりました。

放送部員のスキルアップのため、現在、第3系マスターを使用した放送運行の検証作業やトレーニングを勤務として取りいれていますが、今後は、新放送システムのマニュアル類の充実や24時間体制の保守契約締結で、放送のさらなる安全性の確保に努めて



いきます。

- ・生駒送信所での取組みについて

生駒送信所には6600Vの高圧電源があり、月に一度の目視点検を行っています。そのため、送信所内での事故防止のために全部員は関西電気安全協会の安全衛生教育を受けています。また、送信所には高圧作業用のゴム手袋やヘルメット、検電気を常備し安全対策に取り組んでいます。

- ・視聴者の皆様へのサービス向上

9月、関西空港のカメラを「フルオート24時間稼働収録カメラ」に更新。視聴者の皆様への天気や災害情報のサービス向上を図りました。

さらに2月に午後のニュース（14時05分）でリアルタイム字幕放送を開始し、ニュース原稿を自動的に字幕として送出するシステムを構築、稼働させました。なお本システムとの結合テストでは、マスター第3系システムを使用して、実際に字幕対応するニュース番組でシミュレーションを行ったため、テスト期間も短く、安全でスムーズな導入が図れました。

### 3) CM運行での取組みについて

テレビコマーシャルは消費者の商品選択の大きな機会を提供しています。クライアントからのメッセージを正確に視聴者に伝えることが重要です。キャンペーン期間や商品の確認はもちろんのこと、クライアントの指示どおりの放送素材を放送事故のないように、広告会社からの送られるCM進行表の切り口を変えて重複確認しました。結果、進行表入力ミスによる放送事故はありません。また、ルーティーンの進行表確認作業のマンネリ化を防ぐために適宜、部内異動を行い、全てのスタッフがCM運行データ管理できるように指導し、クライアント側のコンプライアンス対応のための緊急CM素材変更や、自然災害、事件・事故で急に編成される報道特別番組や緊急番組変更などの対応が、放送事故なく放送できました。

CM表現考査は、放送されたCM素材が、視聴者が不利益を被らないように、関係法令に遵守した表現であるか否か、視聴者目線で公序良俗に反していないかを確認しました。CM表現考査は、＜テレビの常識＞が＜一般常識＞から外れないように自主自律の精神を保持するために厳しく確認しています。

＜CM運行の放送事故＞や＜ゆるい考査＞で媒体価値を下げないことが、CM部の大切なCSR（社会貢献）だと考えています。

### 4) 民放連、学会への取組み

11月「民放技術報告会」にて制作技術局から「ヘリコプター位置情報確認システム」、「小型報道中継車」の2件、放送業務局から「新デジタルマスター」、「新字幕システム・

番組バンクシステム」、「新HDテロップシステム」の3件を発表しました。

映像情報メディア学会の評議員として、学会活動に参画し、2009年度の学会事業では専門講習会担当となり、総務省やNHK、メーカーから講師を招き、「地デジ完全移行に向けて」と題した専門講習会を2月に開催しました。

## 5) 制作技術の取り組みについて

制作技術局では、社内だけではなく社外に出て番組制作を行う事が頻繁にあります。その際、一般の人や社外団体、またその施設と接することが多く、制作技術局ではこの作業や活動においてコンプライアンス遵守と作業の安全重視を日常的な重点項目としてスタッフに徹底しています。

同時に高品質な番組制作のため技術力向上や研究・開発にも日頃より取り組んでおり、2009年度は、番組制作分野で特にドラマ制作に力点を置き、スタッフの育成と技術能力向上を目指しました。具体的な取り組みは、以下の通りです。

- ・ 恒常的に各種テレビ技術セミナーにできるだけ参加し技術力の向上に努めています。
- ・ 技術開発や創意工夫の成果として、報道技術部の「ヘリコプター位置情報確認システム」(報道技術部)が、11月の「FNSあんたが大賞」審査で技術部門賞受賞、3月の「映像情報メディア学会放送番組技術賞」でも次点を獲得し、制作技術部の「サラウンド効果音送出システム」も上記「FNSあんたが大賞」でアイデア部門賞を受賞しました。
- ・ 9月から3月にかけて、総務省近畿総通内での“テラヘルツ波(超高周波)利用に関する調査検討会”にメンバーを派遣、新しい技術の知識習得をめざしました。
- ・ 制作技術局2名、放送業務局1名が、新たに無線従事者の資格を取得しました。今後も外部スタッフを含めスタッフに対し資格の取得を奨励します。
- ・ 10月、民放連ドラマ部門において、優秀賞を受賞した前年制作の「ありがとうオカン」に制作技術局スタッフが携わりました。
- ・ 10月～12月放送の全国ネットドラマ「リアル・クローズ」に社員技術スタッフ(カメラ、照明、編集)を派遣し、東京での番組制作に携わりました。
- ・ 1月以降、デジタルシネマカメラやデジタルスチルカメラを使った新しい撮影分野への研究、取り組みを始めました。

## (9) 営業部門の取り組み

2009年度は、戦後最大の景気後退に見舞われた2008年後半に引き続き、経済環境の悪化による広告宣伝費の削減に歯止めがかからず、前年割れの極めて厳しいセールス環境下に置かれました。特に主要業種である自動車、飲料、電気機器、インフラ系

企業からの落ち込みが激しく、クライアントの固定費回避傾向によりレギュラー番組提供社の脱落が著しい状況で、スタートしました。

そのような中、5月には全国ネットで放送いたしました大型スポーツイベント「三菱ダイヤモンドカップゴルフ 2009」の運営に社内の他部署とともに携わり、大会は大きく盛り上がり、成功裏に終わりました。このイベントでは例年、国連難民高等弁務官事務所を通じての難民支援や、大会開催地に福祉目的のチャリティ活動を行っており、社会貢献にも寄与しました。

また本社社屋内の子供向け学習施設「キッズプラザ大阪」との相乗効果を考慮し、8月の8日・9日に同施設と隣接するイベントスペース「アトリウム」にて、家族向けの無料イベント「8・8こどもまつり」を協賛スポンサーにサポート頂き実施しました。これは子供たちに最先端のロボット技術を体感してもらうためのイベントで、会期中は高度な制御技術を使った最新の二足歩行ロボットによるショーが人気を集めました。

さらには、国立民族学博物館で開催される特別展のブームアップのため、視覚効果を使ったメディアアートの手法を用い、カナダ原住民の精神世界を体験型の展示で分かり易く伝える試みを、ナレッジキャピタル推進部と取り組みました。

そして迎えた下半期は、ここ数年続いたテレビ広告市場の下降線に、若干歯止めがかかった状況となりました。市場のデフレ傾向は続いているものの、食品・化粧品・インフラ系企業が回復基調で、スポットCMセールスにおける牽引役を果たしました。しかし、スポンサーの固定費回避の傾向に変わりはなく、レギュラー番組の提供セールスは引き続き厳しい環境下に置かれています。

このような状況下で、営業局では新しい取り組みとして、JP(日本郵便)にご提供をいただいて「家族愛」と「手紙文化の良さ」をテーマにした番組「家族愛のぞき見テレビ アリガトウって言うてみた」を企画セールスし、東京と大阪の2地区で年末に放送しました。

また3月には、飲酒運転撲滅キャンペーンライブ「LIVE SDD 2010」を関西ローカルの単発番組としてセールスし、放送では臨場感あふれるライブの模様を通して「飲酒運転による悲劇を絶対に起こさない」というメッセージを訴えました。

視聴者サービスイベントとしては既述の「キッズプラザ大阪」に会場される家族に向けて「Pasco ほほえみの森」を3月29、30の両日に実施しました。社屋1階のイベントスペース「アトリウム」に最新鋭の3D投影装置を持ち込み、子供たちが3Dの立体ゲームで森の中を探検しながら、美味しそうなパンに出会うという内容です。参加した子供たちにはゲームで獲得したものと同じパンがプレゼントされるため大変好評で、現代の子どもたちに訴求する新しい形の視聴者還元イベントとなりました。

ここまで記しましたように営業部門では、視聴者の皆様に良質な番組やイベントを提供するため、今後も引き続き「関西テレビ倫理・行動憲章」を遵守し、スポンサーから

の広告等の収入により放送事業の基盤を支えることで、放送文化の発展に寄与するべく取り組んで参ります。

## (10) イベント開催部門の取り組み

2009年度も事業局では、感動やお楽しみを関西地区を中心とした皆様にお届けするため、ミュージカル、演劇、コンサート等様々なイベントを開催に取り組んできました。

5月には「三菱ダイヤモンドカップゴルフ 2009」、恒例のメセナイベントとしては、6月に「3000人の吹奏楽」を開催いたしました。また、「キンダーフェスティバル」は、新型インフルエンザの流行による園児への影響を考え、6月から秋への延期も検討しましたが、10月頃からの再流行の懸念もあり残念ながら中止の決定に至りました。しかし、2010年1月には、予定通り「アマチュアトップコンサート」を開催しました。

そして、7月から10月にかけては、2009年度最大のイベントであるシルク・ドゥ・ソレイユ「コルテオ」を大阪・中之島で開催いたしました。特に今回は年齢、性別を問わず幅広い層の方々に楽しんでいただける作品で、これまでのシルク・ドゥ・ソレイユ大阪公演の中で、最高の36万3700人の方にご覧いただきました。

さらに7月には、シェークスピアの名作「十二夜」を歌舞伎にした舞台、2月には昨年引き続き「Live Jack Special II」を開催し、3月には恒例となりましたスーパーダンスエンタテイメント「BURN THE FLOOR from Broadway」を大阪・東京・福岡で開催しました。

これからも、新しいジャンルのイベントに積極的にチャレンジしていきたいと考えています。

一方、長年にわたり行っております「FNSチャリティ活動」につきましては、8月に本社内アトリウムで開催されました「こどもまつり」会場での募金や、3月のFNSチャリティの「韓国ミュージックフェスティバル大阪公演」会場等イベント会場での募金活動を行いました。今後も引き続き活動の場を広げていきたいと思っております。

2010年度は、10～11月に「平成中村座」を開催するなど、様々なイベント開催を予定しておりますが、コンプライアンス面につきましては、これまでのレポートに記しましたように、リスク分担興行催事契約書の締結や、イベントのホームページ・印刷物をチェックする態勢等も、より定着するよう努力してまいります。

今後も、問題が発生した場合は、できる限り速やかな対応ができるよう努力してまいります。

## (11) 番組審議会の活動

放送法を典拠とする放送番組審議機関として、「関西テレビ放送番組審議会」の強化について委員会運営改善の具体策を、番組捏造事件の反省と教訓にたち、2007年に委員会提言として頂戴いたしました。

当社番組審議会委員の任期は、毎年7月から翌年6月であり、今般2009年7月より第51期番組審議委員会を下記委員にご就任いただきました。

渡辺武達 委員長（同志社大学社会学部教授）  
瀧藤尊照 委員長代行（四天王寺大学教授）  
飯塚浩彦 委員（産経新聞社大阪本社編集局長）  
井上章一 委員（国際日本文化 研究センター教授）  
後藤正治 委員（作家・神戸夙川学院大学教授）  
小長谷有紀 委員（国立民俗学博物館教授）  
通崎睦美 委員（マリンバ奏者）  
平野鷹子 委員（弁護士）  
森下俊三 委員（西日本電信電話株式会社取締役相談役）

そして、第51期番組審議委員会においても、2007年に頂戴いたしましたご提言に依って、改善策「番組審議会のあり方」を踏まえ、2009年度上期も、以下の改善点を引き続き実践いたしました。

### <改善策『番組審議会のあり方』>

#### ①審議対象番組の選定

- ・審議会（委員長）と審議会事務局が合同で行う

#### ②討議を活性化する

- ・オブザーバー（制作担当者）をプロデューサー以外にも拡充する
- ・オブザーバーと委員との質疑応答を随時に（従来は議事の最後）
- ・担当責任役員も当事者性に基づき発言する
- ・委員の自由発言（当月議題以外でも）を拡充する

#### ③諸情報の積極的開示と共有

- ・審議内容を社内外の従前以上に積極開示する
- ・審議内容への対応諸施策を次回審議会で報告
- ・視聴者の苦情・抗議、対応状況のより詳細な報告

<放送倫理会議への伝達>

また、2009年度からの新機軸として、上記③「審議内容の社内各制作現場への周知徹底」について、6月より新たに立ち上がりました「放送倫理会議」において、審議内容を速やかに構成員に伝達し、情報と認識の共有化を実践いたしました。

事業者委員からの各々の部署への示達に加え、放送倫理会議でも周知することで、より確実に現場への周知徹底が図られることとなります。そして今後とも、番組審議会からの指摘や提言を、より実りある形で現場周知することに努力していきます。

また 事業者委員には新たに制作技術局長を加え、地上デジタルの完全移行を目前に、課題への事業者側の取り組みについて詳しく説明できる陣容としました。

<2009年4月から2010年3月の番組審議会審議実績>

以下に各回の審議対象番組をお示しします。審議概要については、当社ホームページ上に公開しております。

- ・第505回番組審議会 (4月)  
S-コンセプト 「緊急報告! 4000万人の国民病“アレルギー”のヒミツ」
- ・第506回番組審議会 (5月)  
連続ドラマ「白い春」第1話から第4話
- ・第507回番組審議会 (7月)  
ザ・ドキュメント「父の国 母の国 -ある残留孤児の66年-」
- ・第508回番組審議会 (9月)  
「よ〜いドン!」(8月24日から28日の1週間放送分)
- ・第509回番組審議会 (10月 \*台風襲来のためレポートで審議)  
S-コンセプト「100キロカロリーショップ ~黄金レシピで健康BODY~」
- ・第510回番組審議会 (11月)  
連続ドラマ「リアル・クローズ」
- ・第511回番組審議会 (1月)  
「テレビの素」(第1回、第2回)
- ・第512回番組審議会 (2月)  
震災関連2番組「巨大地震 未知の揺れ」「震災15年 神戸・御蔵通から」
- ・第513回番組審議会 (3月)  
「冒険チュートリアル」(1月18日、3月1日放送)

## 第4 視聴者の方々とのつながりやメディアリテラシー活動

---

### (1) 活性化委員会からオンブズ委員会へ

「関西テレビ活性化委員会」は、2007年3月に外部調査委員会から設置を提言され、同年7月に正式に設置されたものです。「外部の有識者からなる委員会で、第三者の視点で、番組だけにとどまらず、経営全般に至るまで、当社に対して、広く論評、注意喚起、提言を行う組織」と位置づけられ、浅田敏一委員長以下6名の委員で構成され、2009年度は4月に第9回の委員会、6月に懇談会が開かれました。

#### 1) 第9回委員会（2009年4月）

2009年4月の第9回委員会では、当社の1年間の活動をまとめた「コンプライアンス・CSRレポート（2008年度）」が社長より提出されました。

レポートには、社内全ての部署から寄せられた、これまでの取り組み等が様々な角度から記されている他、経営機構改革については、執行役員制度を見直し、コンパクトな形の取締役会にするなどの改革を実行したことや、編成制作局やその下部組織としての3センターの設置の状況が記されました。

そして、「リスクマネジメントシステムの段階的構築」や「視聴者とのつながり」そして「開局50周年関連イベント」、「メディアリテラシー活動」などの項目についてもその状況が報告され、委員会では、このレポートの内容について審議を行いました。

また、この回では「活性化委員会特選賞」の受賞作品が決定し、表彰も行われました。今回の「活性化委員会特選賞」は、活性化委員が前年（2008年1月から12月）に放送された当社制作の作品（番組、および番組内企画）について、当社の再生に対して寄与したものを表彰するもので、募集方法ならびに審査の経過は、以下の通りです。

- |      |                                       |
|------|---------------------------------------|
| 1月上旬 | 全役員・社員に特選賞について告知、作品の応募受付を開始。          |
| 1月 末 | 応募〆切 応募作品数 のべ22                       |
| 2月上旬 | 社内LANを用いて、役員社員による第1次投票を開始             |
| 2月中旬 | 第1次投票〆切 全社で200票の投票<br>上位5作品を決定 第2次審査へ |
| 3月   | 活性化委員会全委員が、5作品を審査                     |
| 4月上旬 | 各委員の採点を集計                             |

この結果特選賞には、報道番組部が制作した「映像と証言で綴る昭和の記録」（2008年11月17日～21日 全5回放送）が選ばれました。

委員からは、「放送局ならではの社会への還元に、膨大な映像アーカイブの活用がある。

昭和を振り返る映像は、ややもすれば東京局の素材が使われがち。そうした中、この番組の試みは貴重。OBや関係者へのインタビューも貴重な証言であり、単に素材をつなげる以上の仕事をディレクターはしている。」

『あるある問題』への責任の取り方としては、ダイレクトな形ではないにせよ放送局らしい社会的責任の果たし方と地域社会への貢献の仕方であろう。昭和の歴史と関西テレビの歴史が映像で示されており、ローカルの視聴者に対して、関西テレビがこれまで報道機関として果たしてきた役割を総括することで、関西テレビの再生に寄与した番組といえる。」などの講評がありました。

さらに5月27日には、委員会から当社に「コンプライアンス・CSRレポート（2008年度）」についての見解をいただきました。

関西テレビ放送株式会社（以下「関西テレビ」という）より2009年4月10日付で公表された「コンプライアンス・CSRレポート（2008年度）」（以下「レポート」という）について、当委員会は記載内容を仔細に検討した。

2008年度、関西テレビは（社）日本民間放送連盟へ完全復帰を果たしたことをはじめ、50周年記念で、全社員挙げて視聴者の皆様への感謝のためにイベントを行ったことなど、地域に根ざし「視聴者とのつながり」を大切にした放送局に向け、地道な努力を続けていると認識している。

また、編成・制作部門をはじめ、報道、スポーツなど番組制作の各部門では、番組の制作に真摯に取り組む姿勢が見られるほか、営業、イベントなどの部門においても、同様の姿勢が窺える。

なお、当委員会は、3カ月の間に視聴者から寄せられた抗議・苦情についても報告を受け、これを検討したが、重大な人権侵害に該当するものは見受けられない。

裁判員制度が始まるなど、報道を取り巻く環境にも大きな変化が起きており、今後きわめて難しい対応・判断を迫られることもあろうが、関西テレビとしては、慎重を期しつつも、報道すべきことは報道し、主張すべきことは主張し、確固たる信念にもとづき報道機関としての姿勢を堅持されたい。

最後に、民間放送各社の経営環境が厳しさを増しているが、今後も良質な番組作りやイベント開催などに努めることを期待している。

この見解を受けまして、当社は以下のコメントを発表しました。

5月27日、関西テレビ活性化委員会より、2009年4月10日付、当社「コンプライアンス・CSRレポート（2008年度）」に対する見解を頂戴致しました。これは4月10日の委員会でのご審議を経てお纏め頂いたものです。



当社の昨年度の取り組みについて活性化委員会の方々には、(社)日本民間放送連盟への完全復帰や視聴者の皆様とのつながりをつくる取り組み、そして、社内各部門の活動につきまして、基本にご評価を頂いたものと認識しております。

また委員会見解では、裁判員制度の開始など、報道を取り巻く環境変化について言及されておられますが、当社では慎重を期しながらも、これまでと変わらず、確固たる信念にもとづき報道機関としての役割を果たしていく所存です。

さらに、見解で示されておりますように、経営環境がさらに厳しさを増す中にありましても、視聴率偏重に陥ることなく、良質な番組やイベントを制作するべく、役員、社員一同が今後とも鋭意努力を続けてまいります。

## 2) 懇談会 (2009年6月)

6月の懇談会では、活性化委員会が間もなく2年を迎え、委員の任期の満了があることから、今後の委員会のあり方について話し合われました。

委員会の存続につきましては、一部の委員から既に目的は達成されたといった意見が出されましたが、再生委員会答申などでは、オンブズマン機能・内部的自由の保障を中心に活性化委員会設置を提言したもので、常設が前提であると考えられる。ただし、「再発防止策の履行の監視」については、すでに一定の役割を果たしたと言えることから、今後は活動内容を絞った委員会となることが妥当と判断されました。

また、委員構成についても、コンパクトな構成として、機動力を高めることを前提に、6名から3名にすることで合意しました。

これらの懇談会の内容を受け、活性化委員会を発展させた新たな委員会の設置が必要と判断し、委員と協議を重ねた結果、「オンブズ・カンテレ委員会」を設置することになり、7月にその第1回委員会が開催されました。

## 3) 第1回 オンブズ・カンテレ委員会 (2009年7月)

7月30日、新委員全員の出席によって、第1回の委員会が開かれ、今回の改組に伴う委員会規程の改定案が承認されました。また、委員の互選により、蔵本一也委員が新たに委員長に就任しました。

そして委員会の名称を「オンブズマン機能を重視する」とことと、語呂の良さなどから、「オンブズ・カンテレ委員会」へと変更することになりました。

また委員は、視聴者への人権侵害を審議する機能、そして内部的自由を保障する機能など、これまでの委員会の流れを踏まえたうえで、旧委員のうちから、企業・消費者専門として蔵本委員、法律学者として鈴木委員、メディア・社会学者として難波委員の3委員が、メンバーとして、引続き活動することになりました。

さらに活動内容については、旧委員会の活動内容のうち、以下の項目を引続き行なう

ことを決議しました。

#### ① オンブズマン機能

視聴者情報部集約の意見、批判、苦情などを、吟味・検討し、調査を指示したり、当社に改善策を求めます。放送による人権侵害などの抗議、苦情に関しても、独立した立場で調査・検証し、当社に救済措置などの改善策を求めます。

これまでの委員会で扱っていた視聴者対応連絡会内容に加え、放送倫理会議で扱われた内容を中心に専門家の立場から意見を述べます。

また、取り扱う対象は、当社の放送番組・事業イベントのほか、BPOなどで扱われた重要事案についても、放送の将来を見据えた委員会独自の視点で話し合います。

#### ② 内部的自由（制作者としての良心の確立）の保障について

当社の番組制作に携わる者が、放送番組基準に沿わない、良心に反する業務を命じられた場合など、事実関係を調査し、当社に対し注意喚起・改善などを求めます。

#### ③ 特選賞について

独自の表彰制度を持つ意味は重要と考え、前向きに良質な番組や事業イベント等の制作を推奨する委員会として、これまでのように、他とは違った視点で表彰します。

### 4) 第2回 オンブズ・カンテレ委員会（2009年10月）

第2回の委員会では、委員会規程の改定として、オンブズ委員会独自のメールアドレスを作成し、社内に向け公開・周知をはかり、内部的自由関連の事案について、社員等から直接通知をメールで受け取れるようにするとともに、新たな調査スキームを規程化し、従来から存在するコンプライアンスラインとの並存で、より機能的にするよう改定しました。

また、委員からの質問に基づき、放送内容やスキームを当社側から委員に説明し、討議しました。その中で、新たな試みを行うのは大切といった意見やドラマとして、作品をしっかりと作って欲しいなどといった意見、そして、販売する製品についての品質管理等もしっかりやっていかなければならないなどの意見が出されました。

### 5) 第3回 オンブズ・カンテレ委員会（2010年1月）

第3回の委員会では、まず特選賞実施要項について話し合われ、今回から対象を放送番組だけでなく、イベントやその他活動に広げるとしました。それに伴い関連する規程を改定しました。

そして、2009年10月から12月に放送されたドラマ「リアル・クローズ」について、中間のまとめを当社から委員に説明し討議しました。

委員からは、「オンエアリンク」について、有識者からの率直な意見もある中、ファッションを扱ったドラマでのサービスということで、今回行ったことは分かるが、物を売るためにドラマが作られてしまうと、視聴者がそう思うかも知れない。そこをどう考

えるかが重要。

副次的な物販が視聴者にメインに見られてしまうと「沢山売れたことが良いことで、そのために…」という風潮にならないことが確認されるべきだ。テレビがそのように見られてしまうと、テレビが自分で自分の首を絞めてしまう。これを今後どう生かすかが大事。などといった意見が出されました。

活性化委員会が丸2年にわたり、様々な知識・経験に基づく、第三者の視点から当社の番組制作、放送を中心とした事業活動に忌憚の無いご意見をいただく場として、活動していただきました。それは、当社にとって非常に有意義なことでした。

オンブズ・カンテレ委員会の委員の皆様には、今後も第三者の立場から当社の番組等につきましても的確なご意見やご指導をいただけるよう望んでおります。

## (2) 視聴者の皆様からのお問合せ等への対応状況と「月刊カンテレ批評」

### 1) お問い合わせ等への対応件数

2009年度における視聴者の皆様からのお問い合わせ等への対応件数（電話・メール・郵便）の詳細については、以下の通りです。

4月	総件数5255件	(問合せ3884件	苦情1062件	要望626件	感想450件	情報提供168件	その他187件)
5月	総件数6675件	(問合せ3653件	苦情1453件	要望664件	感想440件	情報提供204件	その他261件)
6月	総件数6456件	(問合せ4114件	苦情943件	要望650件	感想341件	情報提供203件	その他205件)
7月	総件数6211件	(問合せ3695件	苦情1063件	要望744件	感想313件	情報提供162件	その他234件)
8月	総件数6201件	(問合せ3733件	苦情1054件	要望632件	感想317件	情報提供171件	その他294件)
9月	総件数7942件	(問合せ4066件	苦情1632件	要望1321件	感想469件	情報提供190件	その他264件)
10月	総件数9535件	(問合せ5134件	苦情963件	要望2692件	感想331件	情報提供166件	その他249件)
11月	総件数6108件	(問合せ3841件	苦情734件	要望857件	感想307件	情報提供141件	その他228件)
12月	総件数7094件	(問合せ4739件	苦情771件	要望717件	感想531件	情報提供131件	その他205件)

2010年

1月 総件数6220件（問合せ3857件 苦情864件 要望743件  
感想420件 情報提供154件 その他182件）  
2月 総件数6904件（問合せ4010件 苦情1081件 要望1074件  
感想391件 情報提供156件 その他192件）  
3月 総件数7279件（問合せ4557件 苦情848件 要望1143件  
感想380件 情報提供151件 その他200件）

## 2) 頂いたご意見等の主な内容について

### 【4月】

4日の「たかじん胸いっぱい」の生放送中に、「FNN報道特別番組 北朝鮮がミサイル発射の誤報」が急遽入り、番組編成に対しての苦情が75件ありました。翌日にも「FNN報道特別番組 北朝鮮がミサイル発射」が編成され、「クイズ！ヘキサゴンⅡ（再）」の放送有無の問合せが44件ありました。

9日の「よ〜いドン！」“懐かしいモノ見学”の菓子メーカー工場で、キャンディになる前の塊にリポーターがかぶりついたことに対する苦情が13件ありました。

14日の「プロ野球中継」“阪神×中日”戦の放送予定でしたが、雨模様の為、放送有無の問合せが226件ありました。

20日の「桑田佳祐の音楽寅さん」で、桑田佳祐さんの追悼番組という演出に、23件の苦情がありました。

23日の「とくダネ！」で“SMAP草彥剛容疑者 公然わいせつで逮捕”の速報が入りました。「FNNスピーク」でも詳細が報道され、草彥さんの今後の出演予定の問合せが入りました。その後、釈放のニュース、謝罪会見の放送が続き、草彥さん関連で155件ありました。

4月から「アップ&UP！」が始まり、応援やご意見、その他問合せなど1ヶ月で211件ありました。

### 【5月】

4日の「プロ野球中継」“阪神×巨人”戦が放送され、延長されなかったことやCMが多いなど、苦情が44件ありました。

16日に新型インフルエンザの国内初感染が確認され、「たかじん胸いっぱい」の放送中に「報道特別番組 新型インフル 国内で初めて発生」のニュースが入り、苦情が22件ありました。また、その後、感染者が関西でも確認され、手洗い・うがい・マスクの着用を呼びかける報道に、マスクの入手方法などの問合せ、「マスクをしながらリポートすると不安を煽る」などの様々なご意見がありました。新型インフルエンザ関連の問合せやご意見、情報提供など1ヶ月で373件ありました。

27日の「グータンヌーボ」に出演予定の韓国のスケート選手に対してのご意見や、「出

演させないように」との抗議があり、合計で332件ありました。

26日の「よ〜いドン！」のアナログ放送音声の瞬断が多く発生し、その件についてのお問合せが53件ありました。

29日の「FNNスーパーニュース アンカー」“金曜日のギモン??「追い出し屋」の実態とは?”に「家賃滞納者を正当化している」などのご意見が19件ありました。

#### 【6月】

ドラマ「白い春」が23日に最終回を迎え、様々な感想や再放送希望など、116件の電話やメールがありました。

26日の「緊急特別番組！マイケル・ジャクソンはなぜ死んだのか！？世界が震えた衝撃の全真相」が、フジテレビでは19時から放送されましたが、当社では19時57分からの放送だった為、ご意見が68件ありました。

#### 【7月】

11日（土）「プロ野球中継2009 阪神×巨人」が放送され、フジテレビで放送された「爆笑レッドカーペット ドキッ！芸人だらけの満点コラボ2時間スペシャル」の放送日時のお問合せや「同日に放送して欲しい」などの要望が、47件ありました。

15日の「スーパーニュース アンカー」に出演の男性コメンテーターが、政局に関して熱く語られ、ご意見が72件ありました。

20日の「ザ・ドキュメント 希望って、何？～不安社会を生きる若者たち～」に、感想や再放送希望が14件ありました。

25日・26日に「FNSの日26時間テレビ2009 超笑顔パレード 爆笑！お台場合宿！！」の放送があり、タイムスケジュールのお問合せが50件、「笑っていいとも！増刊号生SP」の音声の小さいというご意見が17件あり、合計で178件の電話やメールがありました。

#### 【8月】

8日の「たかじん胸いっぱい」“いま、ワルが熱い！元ヤンタレント大集合！！”に、暴走族を美化しているなどの苦情が24件ありました。

10日の「アップ&UP」“ニュースでヒートUP！酒井法子容疑者供述「夫に勧められ吸引」で笑福亭鶴光さんの下ネタ発言に苦情が32件ありました。

10日～14日の「よ〜いドン！」“夏真っ盛りスペシャル！2009年度上半期のオススメベスト3”のお問合せが、合計で232件ありました。

30日の「FNNスーパー選挙2009 審判の日～どこで誰が、未来を変えるのか？」には出演者へのご意見など、36件ありました。

31日に急遽、「FNN報道特別番組 歴史的惨敗から一夜、麻生首相記者会見」が編成され、放送休止になったドラマ「海猿（再放送）」のお問合せなどが92件ありました。

「ぶったま！」が9月末で終了することへの、お問合せや要望などが46件ありました。先月からの酒井法子被告の報道に対して、「過熱し過ぎ」などのご意見が53件ありま

した。

#### 【9月】

6日の「お笑いワイドショー マルコポロリ！」で、新聞の番組欄に韓国の有名男性ユニットの「舞台裏」と記載され、その映像が無かった事に対して153件の苦情がありました。「スーパーニュース アンカー」と「ぶったま！」で、男性コメンテーターのコメントに対しての苦情が、合わせて80件近くありました。また、「土曜プレミアム 特別企画 戦場のメロディ」に「感動しました」「再放送してください」などの感想や要望が40件近くありました。

16日に新政権の組閣で、ドラマ「CHANGE（再放送）」が休止した事への問合せや苦情が58件、その後の「スーパーニュース アンカー」“青山のニュースDEズバリ！”の放送時刻が変更になり、お問合せや苦情が36件ありました。

17日には「CHANGE（再放送）」の中で酒井法子被告の保釈関連の中継がカットインされ、苦情が21件ありました。「ぶったま！」の番組終了に、阪神タイガース情報や青山さんの“NEWSフカヨミ”を楽しみにされていた方より「残念です」「是非リニューアルしてください」など、感想や要望が150件ありました。とりわけ9月は「スーパーニュース アンカー」と「ぶったま！」での男性コメンテーターの政局に対する解説に、たくさんのご意見がありました。「偏っている」「民主党批判だ」などの苦情は1ヶ月で「スーパーニュース アンカー」に242件、「ぶったま！」に113件ありました。

#### 【10月】

3日には、「ぶったま！」が9月末に終了した事をご存知ない方から、「今日の放送はどうなってるの？」「なんでこんな古いサスペンスドラマしてるの？」「『ぶったま！』みたいな番組をもう一度作ってください」などの、お問合せ、ご意見、要望が70件あり、1ヵ月で176件となりました。

6日から再放送が始まった「白い巨塔」に、放送日時や主題歌などの問合せが105件ありました。

30日の「よ〜いドン！」“発見！関西ワーカー”で紹介された瓶詰職人のお店へのお問合せが528件ありました。

フジテレビで23日から放送される「0号室の客」に、放送有無の問合せや放送希望がメールを中心に多く寄せられ、1ヵ月で2002件ありました。

#### 【11月】

1日の「日本シリーズ 北海道日本ハム v s 巨人」のスペシャル解説、スペシャルゲストに対するご意見が21件ありました。

22日の「フジテレビ開局50周年特別番組 たけしの日本教育白書」の司会者の発言に対しての苦情が63件ありました。

25日に「ロングバケーション」の再放送が始まり、初回90分で放送されたものが2

日に分けて放送された為、「昨日と同じ内容が放送されてるけど、どういうことですか？」などのお問合せが38件ありました。

#### 【12月】

10日に「ロングバケーション（再放送）」の最終回が2日に分けて放送された為、先月と同様のお問合せが53件ありました。

11日に「よ〜いドン！」“発見！関西ワーカー”で紹介された 蜂蜜ソムリエのお店の  
お問合せが164件ありました。

14日の「スーパーニュース アンカー」男性キャスターの小沢幹事長に対する発言に、  
ご意見が多く寄せられ、翌日から忌引きでお休みだった為、お問合せ、ご意見、感想な  
どが合わせて116件ありました。

17日の「よ〜いドン！」“人気モン見学”で訪れた新潟の真空パックの切り餅「のお  
取り寄せ電話番号と、繋がらないなどのお電話が93件ありました。

26日の「ナンボDEなんぼ 2009年もガッポリ儲けました！2時間半お金の話し  
かしませんSP」の放送が司会者の男性が逮捕されたことで急遽休止となり、「なぜ放  
送がないのですか？」「今後の『ナンボDEなんぼ』の放送はどうなるのですか？」な  
どのお問合せやご意見などが511件ありました。

「フジテレビ開局50周年記念ドラマ 不毛地帯」の放送が年末年始お休みの為、放送  
日時のお問合せが112件ありました。

#### 【1月】

深夜に連続放送していた「24-TWENTY FOUR」の放送が、11日以降週1  
回の放送となった為、お問合せが109件ありました。

年末年始の特別番組などで休止している「フジテレビ開局50周年記念ドラマ 不毛地  
帯」の放送日時にも、お問合せが92件ありました。

16日の「土曜プレミアム 特別企画 阪神・淡路大震災から15年 神戸新聞の7日間」  
が放送され、「非常に感動しました」「再放送してください」などの感想や要望がありま  
した。

「スーパーニュース アンカー」“青山のニュースDEズバリ！”の放送で、16日に6  
9件、13日は74件、20日は126件のご意見や要望、お問合わせがありました、  
また、男性キャスターが体調不良で4日間お休みした為、155件のお問合わせがありま  
した。

31日の「第29回大阪国際女子マラソン」が行われ、64件の電話やメールがあり、  
うち放送日時やコース、通過時間、順位などのお問合せが32件ありました。

#### 【2月】

「スーパーニュース アンカー」に出演の男性コメンテーターの降板の噂がネット上に  
拡がり、「降板させないでください」との要望や、「降板させるなら、関西テレビは見な  
い」などの抗議が、2日には462件、3日にも211件と、1ヵ月で810件の電話

やメールがありました。

4日の「救命病棟24時（再放送）」の第2話放送中に急遽、「朝青龍会見、引退へ」が10分弱カットインされました。その為、翌日の5日に再度第2話の放送をしたところ、「昨日と同じ内容ですが？」との問合せが164件ありました。

12日の「よ〜いドン！」“発見！関西ワーカー” ビーズアクセサリデザイナーのお店のお問合せが125件ありました。

23日の「R-1ぐらんぷり2010」には、司会者、審査員（審査方法）、出場者のネタなどに対して33件のご意見がありました。

28日のチリ大地震による津波情報の日本地図が画面右下に表示され、警報や注意報が出ている箇所が点滅していることに対する苦情が30件ありました。

また「FNN報道特別番組 日本列島に大津波警報」が放送され、「お笑いワイドショー マルコポロリ！」が休止、「プロ野球中継2010 オープン戦 オリックス×阪神」が5分のみ放送となった為、苦情が55件ありました。

### 【3月】

3日の「FNNスーパーニュース アンカー」“特集 「がん難民」をなくせ！ りんくうタウンに 治療拠点構想”で紹介された病院のお問合せが181件ありました。

8日深夜に放送された「高橋大輔 銅メダルへの軌跡～知られざる4年間の道～」を見終えて、「素晴らしかったです」「感動しました」などの感想や、ご覧頂けない地域の方々からの放送希望が80件ありました。

12日の「よ〜いドン！」“発見！関西ワーカー”で紹介されたおはしの工房のお問合せが138件ありました。

月曜日から金曜日まで放送のあった「真珠夫人（再放送）」が、15日から金曜日だけの放送となり、お問合せやご意見が109件ありました。

25日から28日に「2010世界フィギュアスケート選手権」の放送があり、各種目の放送日時のお問合せが32件、放送予定のない「エキシビション」の放送希望などが576件ありました。

「よ〜いドン！」“いい宿ほっこり自画自賛温泉”が29日から4月2日までお休みだった為、「温泉のコーナーはなくなってしまったのですか？」とお問合せが72件ありました。

また、上記対応数の視聴者情報部で受け付けた視聴者の皆様からの問い合わせ、要望、感想、苦情、情報提供等のうち、番組専属の「視聴者対応スタッフ」が担当しました対応件数につきましては、次のようになっています。

「よ〜いドン！」 330件、「スーパーニュースアンカー」（17時台） 651件

「FNNスーパーニュースアンカー」（18時台） 215件



### 3) 「月刊カンテレ批評」について

「月刊カンテレ批評」はこれまで自社検証番組として2009年度末で72回の放送を行ってきました。当社制作の番組を自ら検証・批評することにより放送倫理を確立する目的で1997年4月に「月刊8チャンネル」として放送が開始されました。そして2004年4月に「月刊カンテレ批評」としてリニューアルし現在に至っています。

番組は、オンブズ・カンテレ委員会の報告などを含めた、当社の情報を公開する目的で「関西テレビからのお知らせ」を番組の冒頭で紹介し、いくつかの「視聴者の声」を取り上げ担当部署から回答するコーナーに加え、番組の演出方法などのあり方について、識者から忌憚りの無い意見を話していただく「メディア批評」コーナーを10月から新設し、番組名にもあります「批評」部分に重きを置いています。そして最後に番組審議会の委員の方々のご意見紹介で締めくくっています。

この番組が、当社の番組やイベントなどを批評することで、より良い番組作り、そして視聴者と心でつながるテレビ局を目指すための一助としての機能を保っています。

### (3) ACAPの会員企業として

当社では2007年度以来、ACAP（消費者関連専門家会議）の会員として活動させていただいており、西日本支部の例会に毎月出席し、消費者でもあります視聴者の方々との結びつきなどを日々調査・研究を行っております。

また、ACAPでは例会時に講演を行っており、4月は「やりませ夢の実現“まいど衛星”～自社経営に活かす衛星開発～」、6月は、「大手電工会社の消費者啓発の取り組み」と、日本消費者協会会長より「日本消費者協会の活動と消費者庁、ACAPへの期待」などのお話を拝聴しました。

さらに、7月は「添加物の安全性と輸入食品監視状況」と、消費者情報ネット理事長より「相談事例から見る最近の消費者事例」、8月の例会では、ACAP研究所所長より「ACAPシンポジウム2009概要と、誤使用防止PJ報告」と、公正取引委員会事務総局 近畿中国四国事務所 総務監理官より「消費者庁開設に向けた公正取引委員会の消費者行政について」9月は、「食と健康」、「取材する側から見た企業の危機管理対応」の講演があり、それぞれのテーマについて理解を深めました。

下半期に入ってから、10月に「どう違う？新聞とテレビ！～危機管理広報の基本～」の講演を拝聴しました。11月は「政権交代と食糧・農業政策について」、1月は「OSK日本歌劇団の再生と現況について」2月は「食卓の向こう側に見えるもの～だから食育なんだ～」の講演に参加しました。今後も引き続き活動等を行っていきます。

## (4) メディアリテラシー推進活動の現状

### 1) 活動全般について

2009年度のメディアリテラシー推進活動につきましては、6月の機構改革と人事異動で、メディアリテラシー推進部を増員し、所管を総務局からコンプライアンス推進局に移すなど、態勢が強化されました。活動の中心であります全社横断の組織“心でつながるプロジェクトチーム”も新メンバーを加え再編成され、新しい活動の基本方針について、改めて議論を重ねました。

基本的にメディアリテラシー推進の活動は、“心でつながるプロジェクトチーム”を中心にした全社員参加型の取り組みであることが確認され、プロジェクトチーム会議の承認で決定し、事務局としてメディアリテラシー推進部が、その具体化についての調整を担当し、プロジェクトチームの会議は毎月1回開催され、メンバーが活動報告や企画提案、情報交換などを行う、活動のバックボーンとなっています。

また同時に、メディアリテラシー番組「テレビの木」(10月からは「テレビの素」)(毎月1回、通常第3日曜日午前6時30分放送)の制作も、担当者ごと推進部に移り、番組制作とメディアリテラシーの実践活動を効果的に連携させ、成果を上げるよう窓口が一本化されました。

また、当社ホームページに、プロジェクトチームの活動が掲載されているほか、メディアリテラシーの関連情報の共有をはかるため、社内に発信しているメールマガジン「メディアリテラシー通信」は、2009年4月から2010年3月まで、合わせて16回発信しました。

さらに活動のシンボルとして、ロゴマークとTシャツを作成しました。後掲の出前授業などの現場で、スタッフ全員が統一したユニホームを着て、メディアリテラシー活動と当社のつながりをアピールしています。デザインは、サークルの中にあるテレビ画面に躍動するハートが描かれ、その両端には大きく広げた翼がデザインされています。プロジェクトチームの活動が、このマークのように大きく羽ばたいて広がっていければと願っています。

### 2) 出前授業について

当社の活動の基幹となっている「出前授業」は、青少年へのメディアリテラシー教育の一環として行っているもので、次のような活動をしました。

まず、8月8日、9日の両日、夏休みに子供の体験学習を支援するための箕面市主催のイベント“こども体験フェア”に参加しました。

会場に、放送のデジタル化で廃用となったアナログ放送機器を使って作られた可搬型のミニスタジオセットを持ち込み、子供達に自由に触ってもらい、テレビ放送の仕事を実際に体験してもらいました。子供たちは、アナウンサー、キャスター、お天気キャス

ター、カメラマン、スイッチャー、ミキサー、ディレクターなど様々な役割を、社員スタッフのサポートで、楽しみながら疑似体験しました。参加者は2日間で児童56人、保護者を含めると97人でした。

また、9月26日には、堺市の教育文化センター施設“ソフィア堺”でも、同様に子供スタジオを展開し、児童29人（保護者を含め60人）を対象に、授業をおこないました。いずれのイベントも、本物のカメラに触れた感動や、ニュース原稿を読むアナウンサーやキャスターの仕事に挑戦した感激などの声が多数寄せられ、子供たちのテレビ放送への関心と親しみが倍増したことと思います。同様の取り組みは、11月、1月、2月、3月に兵庫県や大阪府の小学校でも行いました。

その他にも、7月には箕面市内の中学校に、女性アナウンサーを派遣し、2年生の総合学習の授業として、アナウンサーの仕事、言葉の表現や話し方について講義しました。

### 3) 制作支援活動について

新たな活動として、「中高生のための映像作品制作支援プログラム」を始めました。今回は、近畿地区の中高生を対象にした軽音楽系クラブのコンテスト「We are Sneaker Ages」（ウイ・アー・スニーカーエイジズ）を舞台に、12月のグランプリ大会に向けて挑戦する大阪府立柴島高校と近畿大学附属高校の2校のクラブメンバーの姿を、同じクラブの仲間が取材し、ドキュメンタリー作品を制作するという試みです。

7月から12月までの取材・撮影の後、編集作業を経て3月には近畿大学附属高校の完成試写会を行いました。この体験を通して、ドキュメンタリー作品を制作する「難しさ」と「おもしろさ」を体感してもらえたのではないのでしょうか。この活動は、中高生の映像作品制作を支援する過程において、支援に携わった当社スタッフと、作品を制作した生徒との間で、お互いのメディアリテラシーを学習することにつながり、今後も継続していきたいと考えています。

また「大人のためのメディアリテラシー教育」として、4月から3ヵ月間をかけて、大阪市浪速区の木津卸売市場の朝市実行委員会が、ビデオ作品作りに挑戦しました。

この試みは、作品のテーマは自由とし、カメラや編集機材を当社が提供して、企画から撮影、編集、仕上げまですべて、市場の人たちが行うものです。

企画の立て方やカメラ撮影の講習などのトレーニングを経て、委員会で、作品テーマを、「絆 築く 木津市場」（食育や対面販売を推進する市場のモットー）と決め、月に1回開催される「木津の朝市」を取材対象として作品作りを始めました。

数々の試行錯誤を重ねた結果、3分余りのビデオ作品が完成し、8月23日放送のメディアリテラシー番組「テレビの木」で全編放送されました。そしてスタジオで、制作を担当した市場の人々が、送り手としての現場を体験した楽しさと難しさを語りました。

この体験型の試みは、今後も予定されていて、送り手と受け手の相互理解を深める一

助になればと期待しています。

#### 4) 大学等での共同研究や講義について

メディアリテラシーの共同研究も大学生を中心に進めています。2009年度で2年目を迎えた立命館大学産業社会学部との研究では、4月から新企画でスタートし、「10年後に関西テレビは生き残れるか？」という大胆な研究テーマを学生達に示し、研究を行いました。

当社に限らず、テレビメディアがこれから何処へ向かうのか？ 生き残るために何が必要なのか？ 同世代の番組に対する意識の変化や、放送関連の事業も含めた経営の問題にまで研究対象を広げています。

大学での講義では、1回目は会社の概要や沿革、関西ローカルの考え方、放送と通信の融合など議論の前提となる課題を提示、さらに2回目以降、営業からは“テレビ事業のあらたなビジネスモデル”の研究や、編成からは“テレビはこれからも夢と信頼を与えるもの”とそれぞれ現場スタッフの思いが語られました。

そして7月には、上期の研究のまとめとして学内でのアンケート調査（サンプル数100あまり）が行われ、若者のテレビメディアに対する意識の変化が報告されました。関西ローカル番組の必要性については「関西の文化を大切にしたいから」という意見が添えられていたことが印象的でした。また2月には、代表者6名による成果の発表会が行われ、当社社員らが貴重な意見や提言をもらう機会となりました。

また、関西大学社会学部と進めている「マスコミ制作実習」も4月から毎週、2コマの授業が行われ、長い制作現場キャリアを持つ社員が登壇し、授業を行いました。

学生以外では、研究活動を15年間続けている岸和田市の市民グループに対して、現地で講義を行ったほか、当社で報道デスクや考査担当者とそれぞれテーブルを囲んで、ニュース報道の判断基準、また考査部の仕事などについて学習し、意見交換をしました。

#### 5) その他の取り組み

プロジェクトチームのユニークな取り組みとして、7月22日に“皆既日食観測会”を当社で行いました。本社社屋内にある大阪市の児童教育文化施設・キッズプラザ大阪への協力事業として、国内外からの日食映像の配信を行いました。本社のアトリウムやなんでもアリーナを開放して、各地から伝送されてくるハイビジョン映像を大スクリーンで上映しました。

関係団体や各社など様々な技術協力やご支援を得て実現できた企画で、悪天候だった奄美大島と、上海を除いて、各地から送られてきた鮮明な映像が映し出され、美しいダイヤモンドリングに、会場では歓声が上がっていました。

この観測会には、子供らを中心にのべ600人が集まり、社会貢献の活動に新たなページを開くことができました。

## 6) メディアリテラシー番組「テレビの木」(10月から「テレビの素」)

メディアリテラシー活動のもうひとつの柱となっている番組「テレビの素」(通常毎月第3日曜日午前6時30分から放送)は、レギュラーのメディアリテラシー番組としては、他局に例を見ない番組です。

2007年10月にスタートして以来、放送回数29回、テレビ放送の現場の姿を視聴者にお伝えしてきました。放送の仕組みやスタッフの動き、報道番組やニュース、バラエティやスポーツ番組などを取り上げ、テレビ番組がどのように作られているのかを視聴者の目線に立って、カメラはスタジオの裏の裏まで潜入し、スタッフに密着して見せてきました。

この番組は、「あるある問題」で失われた信頼を取り戻すことを大きな目的としてスタートしましたが、番組制作にあたっては、調整の必要な取材依頼も、各部署で快く引き受けていただき、全社挙げて番組内容の向上にのぞみました。

10月からはタイトルを「テレビの素」と改め、司会者も吉本興業のコンビ、ロザンの2人になりました。番組は新しいアプローチで「メディアリテラシー」の広がりと可能性を追求していきたいと考えています。

2009年度に放送された内容を以下に記します。

「テレビの木」司会：三倉茉奈 佳奈 石巻ゆうすけアナ

4月：「AD(アシスタントディレクター)の仕事」

テレビコラム 「正しいテレビの食べ方」

5月：「録画番組が放送されるまで」

テレビコラム 「景気回復! 今 求められるテレビの役割」

6月：「スポーツニュースの取材記者」

7月：「ニュースの特集コーナー」

8月：「大人のためのメディアリテラシー」

9月：「選挙報道～速報「当確(当選確実)」の仕組み」

「テレビの素」司会：ロザン 杉本なつみアナ

10月：「ロザンの疑問! メディアリテラシーQ&A」

11月：「情報バラエティ番組のコーナーVTRの作り方」

12月：「市民グループがインタビュー取材に挑戦」

1月：「事件報道」

2月：休止

3月：「アナウンサーの仕事」

## (5) 環境対策等、CSR活動について

当社では、コンプライアンス態勢等の構築や積極的な企業情報の開示、情報セキュリティポリシーの再構築など、CSRを常に認識して企業活動を行っておりますが、一昨年に策定した「環（カン）テレ宣言」に則り、環境負荷の少ない社会の実現に貢献する姿勢を明確にし、取組対象の拡大に向け、継続して施策を実践しています。

省エネルギーに対する取り組みとしましては、2008年度から実施している10階テラスの屋上緑化計画やゴミの分別収集やリサイクル推進キャンペーンを継続して実施していますが、その他の取り組みとしまして、番組CMダビング室及び放送機械室の照明180本を蛍光灯からLED灯に変更するなど、社内の一部照明器具をLED照明に切り替えたり、社屋ビルのネオンサインの消灯時間を設けたり、またビル内のテナント施設用エスカレーターの停止日を週1日設定するなどエネルギー削減を実践しています。

また、これらの取り組みと並行して、スタジオ照明の運用や照度の見直しを行い消費電力削減に取り組んでいるほか、大幅な省エネが可能な新規照明器具の開発をメーカーと共同で行っており、2010年度内に製品化する見込みが立っています。

さらに、省エネルギーの実績の一例としまして、5回目を迎えた「クールビズ」では、9月のエネルギー使用量が2008年度は前年比で93%に減少しましたが、2009年度はそこからさらに96%まで減少させることができました。

今後も環境負荷の少ない社会の実現に向けて、全社あげて取り組みを継続していきます。

## (6) 会見、ホームページ等、企業情報の開示状況

### 1) 放送事業者の責務としての企業情報の開示

放送事業者としての責務を果たすため、当社では2009年度も社長会見をはじめ、報道リリースやホームページ等で、業績、視聴率状況、番組改編情報等の開示に積極的に努めております。

また、事件・事故等、社会に与える影響が大きいと思われる事項の情報開示も、適時行っております。

### 2) 社長記者会見

5月29日の決算取締役会後、福井社長が定例記者会見を行い、2009年3月期の決算概要やコンプライアンス・CSRレポート等を公表いたしました。

8月6日、11月16日、そして2010年1月28日にも、社長が定例記者会見を

行い、各四半期ごとの業績動向や視聴率状況を説明いたしました。

また、地上デジタル放送への取り組み状況、活性化委員会からオンブズ・カンテレ委員会への移行経緯と内容説明、それにメディアリテラシー活動に関する説明も行ってきました。

その他、各種媒体への社長個別インタビュー、業界紙への社長会見等も随時実施いたしました。

### 3) 社会的重要な事項に関する情報開示

芸術祭優秀賞をはじめとする番組関連の各賞受賞やデジタルサイネージ実証実験等のイベント情報、ドラマ「リアル・クローズ」におけるオンエアリンクの仕組み、それに個人情報を含んだUSBメモリ紛失の経緯等、社会的重要な事項に関する情報も適時開示いたしました。

### 4) その他の会見、ブリーフィング等

4月10日、第9回活性化委員会開催後、その内容をコンプライアンス推進局長が記者ブリーフィングを行いました。

### 5) ホームページでの情報開示

当社では、視聴者の皆様をはじめとしたユーザーの方の利便性を考慮し、番組情報、並びに企業情報を速やかにお伝えできるよう心掛けたホームページ制作を実施しております。

2009年度に当社ホームページにて開示した企業情報は以下の通りです。

4月 1日 (水) 「代表取締役社長 ご挨拶」更新

4月10日 (金) 関西テレビ活性化委員会

・4月10日付 コンプライアンス・CSRレポート

(2008年度)

・活性化委員会特選賞決定について

4月24日 (金) 関西テレビ活性化委員会

・第9回委員会概要

5月 1日 (金) CS放送「関西テレビ☆京都チャンネル」放送終了の件  
会社案内ページ「会社概要」「会社沿革」リニューアル

5月29日 (金) 関西テレビ活性化委員会

・5月27日付 コンプライアンス・CSRレポート

(2008年度) に対する活性化委員会の見解

・5月29日付 活性化委員会の見解を受けて

6月 1日 (月) 平成21年3月期決算社長会見 (5月29日)

6月 4日 (木)	第46回ギャラクシー賞 選奨受賞
6月22日 (月)	第68回定時株主総会及び「役員担務」について
8月 6日 (木)	オンブズ・カンテレ委員会 第1回 概要
8月 7日 (金)	平成21年夏季社長記者会見 (8月6日)
9月18日 (金)	平成21年 日本民間放送連盟賞番組部門・テレビドラマ番組 優秀賞を受賞!
10月16日 (金)	オンブズ・カンテレ委員会第2回概要
11月12日 (木)	関西テレビ放送、アイルド、フィールドメディアネットワー クの三社がデジタルサイネージの実証実験を開始
11月16日 (月)	11月16日付コンプライアンス・CSRレポート (2009年度上半期)
11月17日 (火)	平成21年秋季社長会見 (11月16日)
12月 1日 (火)	2009年度関西写真記者協会「テレビ・ニュース映画部門」 審査会において、協会賞及び銀賞を受賞
12月10日 (木)	2010年度 第76期 テレビモニター募集のお知らせ
12月14日 (月)	「天のゆりかご」アジアテレビ祭審査員推奨を受賞
12月18日 (金)	「父の国母の国ある残留孤児の66年」文化庁芸術祭 テレビ部門ドキュメンタリーノブ・優秀賞
12月25日 (金)	携帯サイトで“カンテレーえもじ”配信スタート
1月29日 (金)	平成22年新春社長記者会見 (1月28日)
2月 5日 (金)	個人情報が含まれたUSBメモリーの紛失について
2月25日 (木)	4月スタートドラマ「ジェネラルルージュの凱旋」 プレサイトオープン
3月19日 (金)	2年連続、坂田記念ジャーナリズム賞を受賞

## 6) これからの企業情報開示

企業広報部を事務局に、社長室長、コンプライアンス推進局長、経営管理局长、総務局長、編成制作局長、秘書室長等で構成する「広報委員会」では、今後も社長会見で開示する企業情報に関して検討を続けてまいります。

企業に透明性が求められる今、私たちはこれからも、当事者意識、危機管理意識を強く持ち、放送の公共性とそれに由来する高いレベルのアカウンタビリティの必要性を胸に刻みながら、未来に向かって情報を発信してまいります。



## 第5 コンプライアンス態勢の構築

---

### (1) リスクマネジメント態勢等の確立について

当社では2008年2月の五輪番組情報配信問題を受けて、当該部署の業務フローを見直すだけでは不十分と考え、同年3月26日の取締役会において、「リスクマネジメント態勢の確立に着手すること」を盛り込んだ内部統制決議の修正を決議しました。当社ではこれに基づいて、リスクの特定、評価、対処、PDCAサイクルの整備といった一連のリスクマネジメントシステムの確立に取り組んでおります。

その流れに沿って、2009年3月末に全社のリスク管理台帳並びに、リスクマップが完成し、2009年度に入りリスク管理のための組織態勢の変更や規程類の整備、さらには具体的なPDCAサイクルの構築に着手しました。

そして、態勢などを盛り込んだ「リスクマネジメント規程」を4月の取締役会で制定し、規程に基づき組織態勢を変更しました。

具体的には、役員を中心としたコンプライアンス委員会を新たに設置（従来のコンプライアンス委員会はコンプライアンス検証委員会に改称）し、その下部組織として、番組内容以外のリスクマネジメントを統括するリスクマネジメント会議と、番組内容に関するリスクを統括する放送倫理会議を設置しました。

6月には、第1回のコンプライアンス委員会が開催され、2009年度をリスクマネジメントシステム導入期として位置づけ、2010年度以降の本格運用に向けた基盤を構築するための基本方針等を決定しました。

方針では、社会的責任の高い放送内容に関するリスクについては、放送倫理会議を中心とした、番組改編前後のモニタリング態勢の確立や放送内容以外のリスクについては、リスクマネジメント会議を中心としたPDCAサイクルを確立など、**全社的なPDCAの確立**、啓発活動の実施による**管理職層への普及**、管理台帳に基づく**重大なリスクへの認識と対応**、**情報セキュリティシステムの確立**を定めていました。

同時に各部署で、リスク管理台帳の重要なリスクのうち、先行してリスク対応策を検討すべきリスク項目の抽出も行いました。

新たに設置されたリスクマネジメント会議ですが、12月に開催された回において、本格運用についての方策等が話し合わせ、機構改革や人事異動が行われる時期をPDCAサイクルのスタートに合わせることを決定しました。

そして2月には、社員によるUSBメモリー紛失事案を受けて、問題の経緯報告や再発防止に向けた一連の対応（詳細は、情報セキュリティ態勢の項に記載）や方針が決められました。

今後も引き続き、各部署における各種のリスク対処などのチェックを進めていくとと

もに、2010年度におきましてP D C Aの最初のサイクルが効果的に循環するよう、各部のコンプライアンス責任者を中心とした全社的な意識の徹底をはかっていきます。

## (2) 情報セキュリティ態勢について

### 1) 情報セキュリティ態勢の整備全般

前項のリスクマネジメント態勢の確立の一環として、当社では2008年度に情報セキュリティ態勢の再構築に取り掛かり、「情報資産台帳」を作成し直し社内研修などを行いました。

そして2009年4月「情報セキュリティ管理規程」「情報資産取扱要領」を施行しました。

これらの管理規程に基づき、全社で規程の実施・実行度を監査し、問題点を洗い出すと共に浸透を図る具体的施策を始めています。

また、6月の機構改革を機に情報セキュリティ事務局の構成をコンプライアンス推進部・総務部・システム情報部とし、事務局と各部署がやりとりを重ねながら各種台帳の洗い替えを実施し、より細かな管理態勢を取っています。

そして12月には、情報セキュリティ管理規程実施1年目であることから、監査に替えて実施状況を調査するとともにその管理責任者であり実効性を担保するべく指導する立場にあるコンプライアンス責任者の認識度を調査することを目的としたアンケートを実施しました。

その結果、全社的な意識向上と個別事項に対しての実施対策が更に必要と判断し、具体的には、当事者による自主判断だけでは実態が見えにくいことから、第三者による監査が必要で、監査過程やその後の指導・相談で、現局の対応力を高めることが可能といった結論に至りました。

今後も全社的な情報セキュリティの意識向上に向け事務局を中心に様々な方策を行っていきます。

### 2) USBメモリー紛失事案とその対処

そのような中、2010年2月に社員による個人情報を含むUSBメモリー紛失事案を受けて、その再発防止に向けた対策として「情報セキュリティ管理規程」ならびに「情報資産取扱要領」の改定に着手しました。

この事案は、社員が業務のためにUSBメモリーにデータをコピーしていましたが、誤って、そのメモリーを紛失し、関係者の方々にご迷惑をお掛けしたものです。

事案の発生した要因として、外部記録媒体への容易なデータ書き込みの環境と、重要ファイルの管理意識のレベルなどが指摘されました。

そこで具体的な対策を巡り、社内で協議を重ねた結果、社内のシステムと繋がっているPCなどの機器からUSBメモリー等、外部記録媒体へのデータ書き込みについて、セキュリティ精度の高い媒体と許可されたものだけを可能とする制限の実施や、重要ファイルについて、パスワード設定を義務化することにより、万が一紛失等の事態においても、簡単に情報流出しないような高いセキュリティレベルの態勢を実行することとなりました。

### (3) コンプライアンス・ラインの運用について

当社では、社員等（社員、関係会社社員、派遣社員、業務委託社員、アルバイト等のすべての従業員、及び取引事業者の役員・社員その他の従業員）が、当社の業務に関する法令違反、社内規程違反又は企業倫理違反などのコンプライアンス違反行為等を発見した場合の内部通報制度として、2006年9月から“KTV・コンプライアンス・ライン”を定め運用しています。

この制度は、内部通報及び相談の窓口を設置し適切な処理の仕組みを定めることにより、当社のコンプライアンス体制を強化し、もって、放送事業者として社会からの信頼・期待に応えることを目的とするものです。

通報・相談の窓口としては、当初の社内窓口だけでなく2007年以降、外部の法律事務所に委託した社外窓口も設け、それぞれの連絡先を記した“KTV・コンプライアンス・カード”をすべての従業員等（関係会社、派遣、業務委託、アルバイト、取引事業者を含む）に配布して運用しています。

2010年3月末で、制度を開始してから3年半になりますが、この間に、社内窓口に3件、社外窓口に9件、あわせて12件の通報が寄せられており、調査を行ったものが10件、そのうちコンプライアンス違反と認定されたものは5件です。

なお、「コンプライアンス委員会」は7月9日の“コンプライアンス・ライン規程”の改訂に伴ない、「コンプライアンス検証委員会」に名称が変更となりました。

## 第6 経営機構等について

---

### (1) 機構改革と社長室、改革推進本部の設置について

2009年度夏の機構改革では、以下のポイントを課題としました。

1. 危機意識の徹底・意思決定のスピード化・全社一体感の醸成
2. 現場の活性化・本社制作センターの活性化
3. 放送関連収入の拡大・収支構造の変革
4. 次世代メディア戦略を構築
5. 経営管理体制の一元化

これらのポイントは、激変する経営環境に対応するため経営の意思決定を迅速にするとともに、より良質な番組を制作し新たな収入を模索することを目標にしたものです。

また、エリアの視聴者に信頼され、最も必要とされるテレビ局として生き残ってゆくためには、経営の安定化が急務であり、そのためには抜本的な改革が必要と判断。既存の組織の枠組みでは捉えきれない課題に取り組み、解決策を策定するため、社内横断的な組織として6月に「改革推進本部」を設置し、現状の問題点を把握して危機意識を共有し社内の改革を行っています。

また、よりスピーディーな戦略決定が必要なことから「社長室」を設置し、中期経営計画の立案といった経営企画業務のほか、改革推進本部の事務局も兼任し、全社一体感の醸成にも寄与することとしました。

現在、改革推進本部に設置した「コンテンツ戦略」「財務体質強化」「業務改善」の3つのプロジェクトチームは、それぞれのフェーズ毎に順次、「コンテンツマルチユース事業体制の構築」「テレビ会議システムの導入」などの提言をまとめ、経営がそれについての方針や施策を打ち出すという形で、改革への取り組みを進めています。

同時に経営資源が各局に分散し情報伝達が遅くなった部分や、意思決定のスピードが鈍化していた部分を改善する目的で、経営企画局と経理局を統合して「経営管理局」としました。これにより一貫した予算編成と実績管理が行えるようになりました。

また、クロスメディア事業局を発展的に解消して「メディア戦略局」と「ライセンス開発局」とすることで、これまでのインターネットやモバイル事業を継承し拡大させるとともに、放送関連収入の拡大を目指す戦略的セクションの位置づけを明確にしました。

コンテンツ制作の現場では、本社の制作センターの2つの部を1つに統合することで、より有機的に番組制作が行えるようになり番組単位での人的な交流もスムーズに行え、若手の制作者の経験の場も増えています。東京は「東京コンテンツセンター」

に編成部門・制作部門・ライツ部門を統合し、情報の共有や意思疎通を図るとともに、東京で制作するコンテンツの有効的な利用を目指しています。

これに加え編成制作局に新たにメディア調整担当部長を設置、コンテンツの企画、制作を行う現場と放送関連収入を担う部署等、関連する組織同士が十分なコミュニケーションをとりつつ、円滑に業務を推進できるように体制を整えました。

## (2) 経営陣と社員間のコミュニケーション改善について

2007年の再生委員会答申におきまして、経営陣と社員との間のコミュニケーション不足が当社内部の問題であると指摘されました。また2008年2月に発生しました五輪番組情報配信問題におきましても、当社のコミュニケーション不足が大きな課題として再び浮かびあがりました。活性化委員会が3月21日付で発表しました「活性化委員会の考え」においても、「円滑かつ迅速な社内コミュニケーションスキルを役員・社員が身に付けていくためのシステム構築も必要」と指摘・提言を受けました。

これらのご指摘を受けまして、2007年からの局長会議事録の開示に続き、当社の重要会議である取締役会や常勤役員会につきましても、経営上の秘密・個人情報に関するものなど開示に適さないものを除き、「役員会報告」として2009年から社内LAN上に会議内容を開示しています。

また期の節目などの機会をとらえ、経営陣と社員との直接的なコミュニケーションの場として「全社員集会」を以前より多数開催しております。

さらに2009年9月からは、社内コミュニケーション活性化の新たなツールとして、社内SNS「hachi」の運用を開始し、職制を通じた社内情報の共有にとどまらず、「コミュニティ」への参加などにより部署の垣根を越えた、社員の連帯感を醸成するためのコミュニケーションツールとして活用しています。

## (3) 関係会社の再構築とグループ政策について

2009年3月期、関西テレビグループは、当社ならびに番組制作会社など、11社の子会社からなる計12社の企業グループとして、初めて会社法に基づく連結計算書類を作成し、株主総会で報告しました。

子会社の管理業務については、6月にグループ企業の経理業務を一元的に行う経営管理局の所管とし、グループ一体経営へ向けた体制を整えました。またグループ経営の強化を目的に、2011年3月期から連結納税制度を適用するための申請を行いました。

グループの再構築については、2009年度は5月に、2008年度に特別清算を行

っていた介護関連事業会社の清算が終了し、9月末にはソフトウェア開発やシステム運用・保守を主たる業務とする子会社について、グループIT体制の効率的な運用や戦略的な構築などを推進するために、少数株主から株式を譲り受け完全子会社化しました。

また業績悪化により、京都関連コンテンツの制作と集積などを目的として設立された子会社は、9月末には業務を終了し、11月に解散、2010年2月に清算終了しました。

さらにビル管理の受託業務と不動産のサブリース事業を行っていた子会社については、ビル管理業務の縮小等を機に、グループ経営の効率化を図るため、2010年2月1日に当社へ吸収合併しました。以上の結果、2010年3月期には、子会社は8社となり、当社を合わせた9社の企業グループになりました。

また、通販事業を主要事業とする子会社が行っていた当社キャラクターグッズの販売事業は、3月末を以って終了し、当社が在庫を譲り受けたうえで自社利用を中心に一部販売する体制になりました。

## 第7 放送人倫理の確立に向けた 教育・研修等

---

### 1)社内研修

当社では、2007年制定した「関西テレビ倫理・行動憲章」をベースに、全社員の放送人としての倫理の確立に向けた様々な社内研修を行っているところです。

2009年度は、4月に入社した社員に対し、2日間にわたるコンプライアンス研修を行いました。この研修ではまず、当社が起こした捏造問題について、その経緯や調査委員会から指摘された事項、さらには再生の道筋などを時系列に沿って理解を深めさせました。

さらに識者の講演や、ケーススタディーをめぐるグループ討論なども行い、「関西テレビ倫理・行動憲章」が意味することを仕事で活かせるようにしました。このような研修は、今後も引続き行う予定です。

また8月4日には、6月の人事異動で管理職に昇格した社員を中心に12名を対象とした「新任管理職研修」を行いました。この研修では、リスクマネジャーとしての役割についての認識や理解を高めること、リスクマネジメントの必要性、プロフェッションとしての自覚などを中心に、講義を行いました。

2010年3月下旬には入社10年前後の社員に対し、コンプライアンスを中心とした研修を行いました。

### 2)放送倫理・コンプライアンス研修会

2007年4月中旬から、前述の「放送倫理部会」が中心となり、外部講師を招聘し講演と意見交換を行う「放送倫理・コンプライアンス研修会」と名づけた定期的な研修を10数回にわたって行っていますが、2009年度も引続き、各界から講師をお招きしてこの研修会を開催しています。

5月22日には、消費者関連専門家会議（ACAP）前理事長で、当社オンブズ・カンテレ委員会委員長（当時は関西テレビ活性化委員）の蔵本一也氏による「新しい消費者時代に向けて（テレビとのかかわり）」と題する講演会を行いました。これにより、役員・社員が、消費者行政や関連する分野の問題点など幅広い情報に触れることができました。

さらに9月25日には、BPO人権委員会委員で専修大学准教授の山田健太氏を講師にお招きして、「最近のBPO判断事例や番組のプロダクト・プレースメントについて」というテーマを中心に民主党政権の放送行政についてや、番組とCMの境界線などについて講演していただき、参加者と活発な質疑応答を行ないました。

実質の開催日は、2010年4月14日と年度をまたぎましたが、「あるある問題」から3年が経過したこの機会に、改めて企業にとっての不祥事を考えるといったテーマ

で、同志社大学法科大学院兼任教授で弁護士の山口利昭氏に講演をお願いしました。

山口氏は、内部統制システム構築、企業会計関連、コンプライアンス体制整備、独立第三者委員会委員、内部通報制度における外部窓口業務など幅広い企業法務に携わっておられ、それらに関連する知識を得ることができました。

これらの研修会は、いずれの回も参加者は50人を超え、業務等の都合で参加できない者のために、社内のLANシステムに音声データや講演詳細を公開して、随時内容を確認できるようにするとともに、支社等に向けてDVDを作成しています。

2009年度の研修会は、放送倫理に関連する分野はもとより、複雑化する業務について、より実務的な知識や情報を身につけることのできる場としての役割も果たしており、今後も引続き様々な分野の識者の方々を招いて、社員の倫理観の向上や、業務におけるスキルアップをはかっていきます。



## 第8 おわりに

---

本レポートにおいては、2009年4月から2010年3月に至る1年間の当社の活動についてご報告申し上げます。また、本レポートは、社内の全ての部門が執筆を分担しております。

視聴者の皆様には当社の役員・社員の決意ならびに活動をご理解いただき、今後とも変わらぬご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

冒頭に述べました通り、当社は、リスクマネジメントシステムの段階的構築に取り組んでいるところですが、2月にUSB記録媒体紛失事案が発生し、関係者の方々にご迷惑をお掛けしたことを反省し、情報セキュリティ管理を含む内部統制システムの整備に引続き取り組んでおります。

また、2008年秋の金融危機に端を発した不況の影響が未だに続く中、欧州の金融問題も発生しており、放送業界におきましても広告出稿が減少した状況から好転いたしておりません。しかしながら、放送事業者としても昨年来様々な構造転換を実施すべく努力を続けております。

売上増や新たな収入源を模索する一方で、資源配分を再検討し、持てる力を放送に集中して行かねばなりません。また、役員・社員の一人ひとりが放送人として高い志を持ち、これまでも増して高度な専門性を身につけることで、より信頼性の高い、社会に不可欠な公共的役割を担い続けるべく努めてまいります。

放送番組の質の維持向上、視聴者の皆様に対するサービスの向上という命題は、いかに不況といえども等閑視できないことを肝に銘じ、以前より視聴者の皆様に掲げております「エリアで最も必要とされる“コンテンツ・メーカー”」そして「ライフラインとして信頼されるテレビ局」となることを念頭に、今後も本業である放送を中心とした事業運営にあたってまいります。